

Agile Product Lifecycle Management

Product Quality Management ユーザー・ガイド

v9.3.2

ORACLE®

部品番号: E50276-01

2012 年 12 月

著作権表示および商標と登録商標について

Copyright © 1995, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つかった場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことによりして損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することができます。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。RMW 製品には Visigoth Software Society で開発されたソフトウェアが含まれています。

目次

著作権表示および商標と登録商標について	2
Product Quality Management	1
Product Quality Management の概要	1
始める前に	1
PQM のベスト・プラクティス	2
9.3.2 の新機能	3
Web クライアント・ホームページ	4
ナビゲーション・ウィンドウ	5
フォルダ	5
レポートと分析	6
ナビゲータ	6
製品サービス依頼	6
問題レポート	6
不具合レポート	7
品質変更要求	7
検証	7
是正・予防処置	7
品質追跡	7
品質に関する役割	8
品質に関するプロセス	8
品質関連のスマートルール	9
品質検索	9
「品質」タブ	9
顧客およびサプライヤに対する品質問題の表示	10
品質レポート	10
不具合トレンド・レポート	10
品質状況レポート	12
品質バックログ・レポート	13
品質サイクル時間レポート	15
品質メトリックス・レポート	17
 製品サービス依頼 (PSR) を使用する	19
PSR を作成する	19
製品サービス依頼の作成	19
アイテムからの PSR の作成	20
他の複数の PSR を集約する PSR の作成	20
「名前を付けて保存」を使用した PSR の作成	21
PSR または QCR の検索	23
PSR の「カバー・ページ」タブ	23
PSR のカバー・ページの更新	24
PSR の「対象アイテム」タブ	26

NCR の「対象アイテム」タブの属性	27
PSR の「対象アイテム」タブへのアイテムの追加	28
「対象アイテム」タブからのアイテムの削除	29
「対象アイテム」タブのアイテムの編集	30
「関連 PSR」タブ	30
関連 PSR を親 PSR に追加する	32
「関連 PSR」タブのアイテムの編集	34
関連 PSR を削除する	34
「関係」タブ	35
関係 - テーブル	35
PQM における関係	38
参照オブジェクトとは	38
関係の属性	39
「関係」タブのツール	39
「関係」タブ・テーブル	39
PSR の「関係」タブへのオブジェクトの追加	40
「関係」テーブルの編集	41
関係の削除	42
関係ルール	42
関係ルールの追加	42
関係ルールの編集	43
関係ルールの削除	44
フィルタ	44
PSR の「ワークフロー」タブ	45
PSR を提出、ルートする	46
承認マトリックス	46
PSR の「添付ファイル」タブ	47
品質変更要求を使用する	49
QCR を作成する	49
「名前を付けて保存」を使用した QCR の作成	50
アイテムからの QCR の作成	51
PSR からの QCR の作成	51
QCR の「カバー・ページ」タブ	52
QCR のカバー・ページの更新	54
QCR の「対象アイテム」タブ	54
QCR の「関係」タブ	55
QCR の「ワークフロー」タブ	56
QCR を提出、ルートする	57
QCR の「添付ファイル」タブ	57
製品サービス依頼の管理	59
PSR の承認	59
PSR の確認	60
PSR の却下	60
PSR を終了する	61
PSR の「アクション」メニュー	61

PSR のステータスの検証.....	62
PSR のリリースの検証.....	62
「検証」 ウィンドウ	63
品質変更要求の管理.....	65
QCR の承認	65
QCR の確認	65
QCR の却下	66
QCR を終了する	66
QCR の「アクション」メニュー.....	67
QCR の変更指示.....	67
Agile オブジェクトの削除.....	69
PSR オブジェクトまたは QCR オブジェクトの削除に関する注意事項.....	69
オブジェクトのソフト削除.....	70
オブジェクトの削除の取消し	70
オブジェクトのハード削除.....	71

はじめに

Oracle の Agile PLM マニュアル・セットには Adobe® Acrobat PDF ファイルが含まれます。 [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html) <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html> には、Agile PLM の最新版の PDF ファイルがあります。この Web サイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上の Agile PLM マニュアル・フォルダに Agile PLM マニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。

注意 PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader のバージョン 9.0 以降（無料）を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe 社の Web サイト](http://www.adobe.com) <http://www.adobe.com> からダウンロードできます。

[Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html) <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html> は、Agile Web クライアントと Agile Java クライアントのいずれの場合も、「ヘルプ」>「マニュアル」の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

注意 Agile PLM マニュアルに関する問題について Oracle サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル・ページにある部品番号をご準備ください。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

Readme

Agile PLM の最新情報は、すべて [Oracle Technology Network \(OTN\) Web サイト](http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html) <http://www.oracle.com/technetwork/documentation/agile-085940.html> にある Readme ファイルに記載されています。

Agile トレーニング支援

Agile トレーニングの講義内容詳細は、[Oracle University Web ページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html にアクセスしてください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行っておりません。

Product Quality Management

この章のトピック

■ Product Quality Management の概要	1
■ 始める前に	1
■ PQM のベスト・プラクティス	2
■ 9.3.2 の新機能	3
■ Web クライアント・ホームページ	4
■ ナビゲーション・ウィンドウ	5
■ 製品サービス依頼	6
■ 品質変更要求	7
■ 品質追跡	7

Product Quality Management の概要

Agile Product Quality Management (PQM) は、世界中の主要なビジネス組織で現在使用されている強力なソリューションです。Agile PQM にはデータの追跡および管理に使用される革新的な手法が含まれており、品質（製品の向上）、生産性（時間サイクルの短縮）および信頼性（障害ゼロ）の向上につながります。このソリューションの柔軟性により、多くのビジネス・ベンチャでソリューションの統合が強化されます。ソリューションには、顧客の不満、製品や製造の欠陥、フィールド障害、および拡張とは正・予防処置などがあります。Agile PQM は、顧客サービス、フィールド・セールス、製造、およびエンジニアリングにおける企業の組織を統合して、組織を顧客やパートナーと結び付けることにより、互いの協力関係を作り上げます。

かわりとなる品質管理パッケージが市場に参入するに伴い、顧客は最小のコストおよび短い製品ライフサイクルで質の高い製品を求めています。顧客から報告された品質問題は、欠陥を検出し、確実に解決するのに役立ちます。効率よく欠陥を低減し、製品の品質を向上させるには、タイムリーな欠陥の追跡、根本原因の特定が重要です。

Agile PQM ソリューションには、製品サービス依頼 (PSR) と品質変更要求 (QCR) があります。PSR は、問題レポートと不具合レポートを管理します。QCR により、検証や是正・予防処置 (CAPA) が作成および管理されます。

始める前に

FileLoad を使用し始める前に、環境が正しく設定されていること、およびこのセクションに説明されている正しい権限があることを確認してください。

このマニュアルでは、会社で Agile PLM をインストールしている場合に Agile Product Quality Management ソリューションを使用する方法について説明します。Agile PLM をインストールするには、該当するインストール・マニュアルを使用します。Agile PLM をインストールし、Agile オブジェクト、Agile クラス、それらのアプリケーションおよび動作を理解する際には、次に示すマニュアルを参照してください。

- 『Agile PLM Database Installation Guide』
- 『Agile PLM インストール・ガイド (Oracle Application Server 用)』
- 『Agile PLM インストール・ガイド (WebLogic Server 用)』
- 『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』
- 『Agile PLM 管理者ガイド』

すべての Agile PLM ソリューションで使用されている共用語の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

PQM のベスト・プラクティス

Agile PQM の使用時に最善の結果を得るために、次の点に注意してください。

□ 問題レポート

- 問題レポートを使用して、顧客の苦情を把握します。
- 不具合の問題を把握するのに、問題レポート（PR）は使用しないでください。
- クローズド・ループ・プロセスを使用している会社では、顧客の苦情の結果、是正・予防処置が講じられる場合があります。特定の顧客の苦情を是正・予防処置に結びつけるには、PLM の関係機能を使用します。

□ 不具合レポート

- 不具合レポート・クラスを使用して、内部検査およびテストで発見されたすべてのサプライヤの受入時の問題点および欠陥を把握します。
- 検証時に見つかった不具合を把握するには、不具合レポートのサブクラスを使用します。
- クローズド・ループ・プロセスを使用している会社では、不具合レポートの結果、是正・予防処置が講じられる場合があります。特定の不具合レポートを是正・予防処置に結びつけるには、PLM の関係機能を使用します。

□ 是正・予防処置

- 是正・予防処置クラスを使用して、是正・予防処置を把握します。

□ 検証

- 検証クラスを使用して、スケジュールされている検証の詳細を把握します。
- 特定の検証結果を報告するには、不具合レポートを使用します。

□ 対象アイテム

- 「対象アイテム」タブには、問題レポート、不具合レポート、是正・予防処置または検証が添付されているアイテムの詳細が表示されます。ここには、品質のアイテム・ビューが表示され、影響を受ける製品および不良モードが表示されます。製品ラインは、添付されている問題レポート、不具合レポート、是正・予防処置ではなく、アイテムから情報を取得します。

9.3.2 の新機能

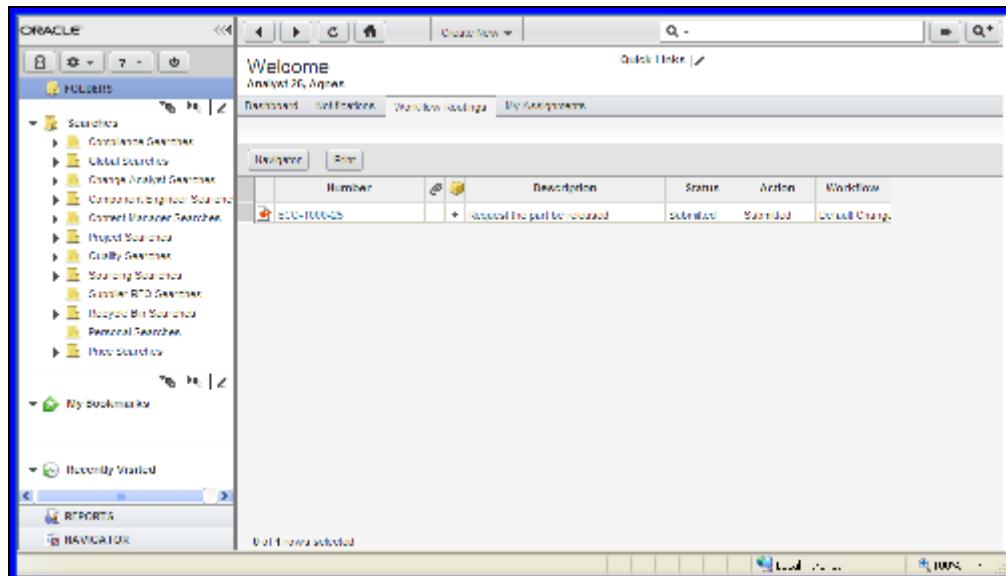
Agile PQM 9.3.2 ガイドには、次の機能および拡張機能が説明されています。

- コンテンツ・ウィンドウの「ナビゲータ」ボタン。詳細は、6 ページの [「ナビゲータ」](#) を参照してください。
- 「顧客」および「サプライヤ」オブジェクトの「品質」タブの「QCR」テーブル。詳細は、9 ページの [「品質」タブ](#) を参照してください。
- 確認者と呼ばれるレビューの新しいグループが送信可能なオブジェクトに追加されました。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。
- 承認マトリックス機能では、承認者、オブザーバおよび確認者を、これらのユーザーが作業で実行するジョブ機能に従って、送信可能なオブジェクト・ワークフロー・アクションに自動的に割り当てるようになりました。詳細は、46 ページの [「承認マトリックス」](#) を参照してください。
- 参照オブジェクト機能では、ユーザーが外部アプリケーションのオブジェクトを検索し、「関係」タブの参照としてオブジェクトを追加できるようになりました。詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「参照オブジェクト」を参照してください。
- ステータスおよび検証のリリースは、63 ページの [「検証」ウィンドウ](#) を使用して簡単に訂正できます。

Web クライアント・ホームページ

ログインすると、自分のユーザー・ホームページ(「ようこそ,<ユーザー名>さん」)が表示されます。

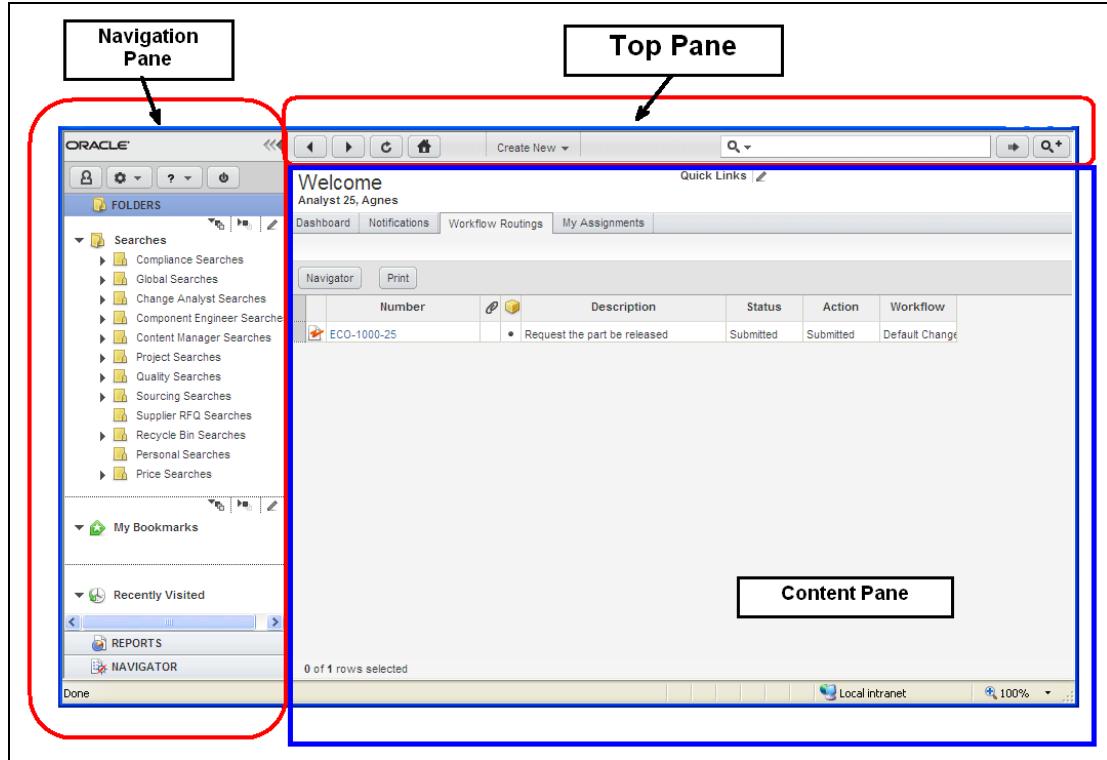
推奨開始ページの設定により、コンテンツ・ウィンドウに表示されるタブが決まります。一般的なホームページを次の図に示します。



「Web クライアント」 ウィンドウは、3つの主な領域つまりウィンドウで構成されています。

- 上部ウィンドウ
 - ナビゲーション・コントロール (戻る、前方へ、更新、ホーム)
 - 「作成」メニュー
 - 「検索」コントロール
- ナビゲーション・ウィンドウ
 - ブランド・エリアおよびナビゲーション・ウィンドウの展開および縮小コントロール
 - 提供コントロール
 - 個人設定
 - ツールおよび設定、たとえば、インポート、エクスポートおよびアドレス帳。
 - ヘルプ
 - ログアウト
 - 「ナビゲーション」ドローワー
 - 「フォルダ」ドローワー : 保存済検索、私のブックマーク および最近訪れたところ
 - 「レポート」ドローワー : レポートと分析
 - 「ナビゲータ」ドローワー : ワークフロー・ルーティング、検索結果テーブル、BOM ツリー またはプロジェクト・ツリーからのリンク。
- コンテンツ・ウィンドウ
 - ビジネス・オブジェクト・テーブル・データはコンテンツ・ウィンドウに表示されます。

- ログイン時および「ホーム」ボタン  をユーザーがクリックした際には、ホームページ。



ナビゲーション・ウィンドウ

ナビゲーション・ウィンドウと呼ばれる左側のウィンドウから、設定、検索、レポートおよびAgile PLM ナビゲータ機能に対する基本的なアクセスが可能です。

- ロゴ・エリアには、ナビゲーション・ウィンドウの縮小および拡大コントロールがあります。
- ナビゲーション・ウィンドウ・ツールバー。
- ナビゲーション・ウィンドウのドローワーからは、次にアクセスできます。
 - フォルダ : 「検索」フォルダ 、「私のブックマーク」フォルダ 、「最近訪れたところ」リスト .
 - レポート : 分析、標準レポート、グローバル・レポート、パーソナル・レポート。
 - ナビゲータ : ワークフロー・ルーティング、検索結果、アイテム BOM ツリーまたは PPM プロジェクト・ツリー。

フォルダ

「フォルダ」ドローワー  には、保存済の検索、ブックマークおよび最近訪れたオブジェクトのリストが表示されます。

ナビゲーション・ウィンドウの「フォルダ」ドローワー  の「検索」セクション  には、必要なときに使用できる保存済検索が含まれています。ここでは、事前に定義されているシステム検索および自分が作成した検索がフォルダに保存されます。検索をクリックすると、検索結果が表示されます。

保存済検索の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「保存済検索」を参照してください。

検索フォルダの下には、2つのショートカット・エリアがあります。

-  **私のブックマーク**: 後で素早く表示できるようにブックマークを設定したオブジェクト。オブジェクトにブックマークを設定するには、オブジェクトのページで「アクション」>「ブックマーク」を選択します。ブックマークの設定の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ブックマークの使用および整理」を参照してください。
-  **最近訪れたところ**: 最近表示した 10 個のオブジェクト(Agile 管理者による Agile PLM システム・プリファレンスの設定によっては 25、50 または 100 個の場合もあります)。リンクをクリックするとコンテンツ・ウィンドウに内容が表示されます。「最近訪れたところ」リスト  の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「「最近訪れたところ」リストの使用」を参照してください。詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

レポートと分析

左側のナビゲーション・ウィンドウの「レポート」ドローワー  から、「レポートと分析」フォルダにアクセスできます。権限が付与されているタイプのレポート、および Agile のインストールに含まれている場合は分析フォルダにアクセスできます。既存のレポートの表示、編集および削除を行えます。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

ナビゲータ

コンテンツ・ウィンドウの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、「ナビゲータ」ドローワー  にオブジェクト・リンクのリストが Agile PLM によって入力されます。「ナビゲータ」ドローワーの各リンクをクリックすると、コンテンツ・ウィンドウにオブジェクトが表示されます。「ナビゲータ」ドローワーのリストは、リストをクリックしても、リフレッシュまたは更新されません。

次の場所の「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、ナビゲータ・リストに値が入力されます。

- ワークフロー・タスクをナビゲートする場合は、ホームページの「ワークフロー・ルーティング」タブ。「ワークフロー・ルーティング」タブがホームページに表示されているときに、「ワークフロー・ルーティング」タブの「ナビゲータ」ボタンをクリックします。ワークフロー・ルーティング・リストが左側のナビゲーション・ウィンドウの  「ナビゲータ」ドローワーに表示されます。
- 検索結果のリストをナビゲートする場合は、**検索結果テーブル**。
検索結果テーブルがコンテンツ・ウィンドウに表示されているときに、検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックします。左側のナビゲーション・ウィンドウの「ナビゲータ」ドローワー  に検索結果のリストが表示されます。

PSR および QCR オブジェクトのツールバーに「ナビゲータ」ボタンが追加されます。「ナビゲータ」ドローワー  のリンクをクリックすると、コンテンツ・ウィンドウにオブジェクトが表示されます。ナビゲータ・リストは「ナビゲータ」ドローワー  に表示されたままになるので、ナビゲータ・リストの任意のオブジェクトをクリックして表示できます。

詳細は、『Agile Product Lifecycle Management Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

注意 ナビゲーションのヒントおよびショートカットの詳細は、「ツールおよび設定」>「クイック・ツバー」にある録画デモを参照してください。

製品サービス依頼

製品サービス依頼では、品質問題が報告され、その他の多数の PSR が 1 つの PSR に集約されます。PSR のクラスには、問題レポート (PR) と不具合レポート (NCR) があります。PR では一般的な品質問題が報告され、NCR ではマテリアルの仕様違反やその他の特定の品質問題が報告されます。詳細は、19 ページの「[製品サービス依頼 \(PSR\) を使用する](#)」を参照してください。

問題レポート

問題レポートには、顧客の観点から報告された品質問題に関する簡単な説明が含まれます。顧客、フィールド・サービス担当者またはサプライヤは、問題レポートを処理するための適切な権限を持っている場合、問題レポート

トを提出できます。ワークフローを使用して調査を依頼するために問題レポートをルートする必要があります。ルート後、調査チームは問題の根本原因を調べ、品質分析者の役割が割り当てられているユーザーは、問題レポートの処理を監視します。

Agile Import または Agile SDK を使用することにより、各種 CRM システムから問題レポートをインポートできます。

不具合レポート

不具合レポート (NCR) は、顧客、フィールド・サービス担当者、サプライヤから提出され、1 つまたは複数の製品に対するマテリアルの基本的な仕様違反や要件違反について報告します。調査を依頼するためにワークフローを使用して不具合レポートをルートすることも必要です。

ロットの調査またはテストでは NCR が使用され、品質分析者はサンプリングにより仕様違反がないかどうかを確認します。

品質変更要求

品質変更要求では、検証や是正・予防処置 (CAPA) が作成および管理されます。検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。CAPA は、一般的な品質問題を解決し、根本原因の分析を行って是正・予防処置を実施するための正式なプロセスです。

QCR を使用すると、問題が発生した場合にルーティング可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA (是正・予防処置) の手順を使用して問題を解決できます。CAPA を実行した結果、製品、プロセス、またはサプライヤが変更されることがあります。

QCR を使用すると、次の操作を実行できます。

1. 製品、ドキュメント、サプライヤ、および顧客に関する問題を集約する品質記録を作成して管理する。
2. 変更 (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き変更指示など) を作成し、品質関連の変更を行う。
3. 変更要求をルートして確認と承認を依頼する。これにより、作成者 (品質管理)、根本原因不良分析 (品質管理および設計)、解決 (設計)、是正・予防処置 (品質管理)、コミュニケーション (顧客およびサプライヤ)、および確認 (適合性および検証) の各部門間における連携と協力が可能になります。
4. 問題、是正・予防処置、および設計変更の間で検証を行う。これにより、企業の内部と外部を結ぶ適合性プロセスが実現します。

たとえば、サプライヤから納品されたアイテムのロットの品質をテストするときに、欠陥アイテムを特定します。是正処置を行うには、欠陥アイテムの QCR を作成してルートし、確認と承認を依頼します。変更を通してアイテムをルートすることで、欠陥が修正され、アイテムの最新リビジョンがチェックされます。

詳細は、49 ページの [「品質変更要求を使用する」](#) を参照してください。

検証

検証は品質要件への適合性を確認する事前対応プロセスです。「デフォルトの検証」ワークフローは、「是正・予防処置」ワークフローとは異なります。詳細は、「QCR の「ワークフロー」タブ」を参照してください。

是正・予防処置

是正・予防処置 (CAPA) は、PSR の一般的な品質問題に対処します。CAPA を実行すると、問題の解決につながる 1 つまたは複数の変更が作成されます。CAPA はルーティング可能なオブジェクトであり、ワークフローによって管理されます。「是正・予防処置」ワークフローはワークフロー・ステータスによって異なります。詳細は、「QCR の「ワークフロー」タブ」を参照してください。

品質追跡

品質追跡により、組織はビジネス・プロセスを特定、計測および向上できるため、業績が向上し、顧客満足度を得ることができます。不具合レポートを監視し、CAPA を実装することで、組織は基準を満たすことができます。ここでは、このような基準を満たす品質機能の一部について説明します。

品質に関する役割

Product Quality Management は次の役割を提供します。

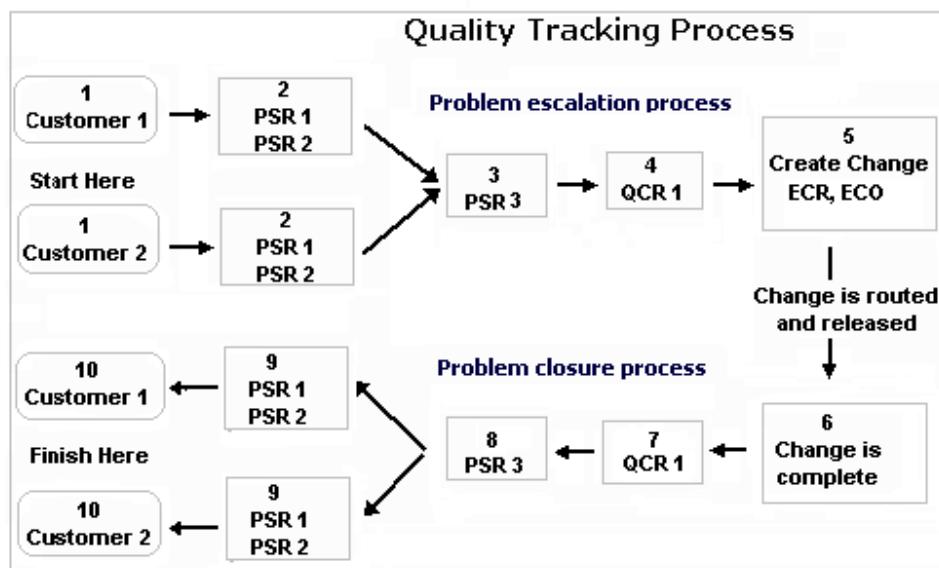
品質分析者: 品質分析者の役割がある場合、問題レポート (PR) と不具合レポート (NCR) を提出し、ソリューションを管理できます。

品質管理者: 品質管理者の役割がある場合、検証や CAPA を管理できます。

Agile PLM の役割の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

品質に関するプロセス

次の図は、品質問題プロセスの一例を示しています。この図では、各ステップに番号を付けて説明しています。



1. 2人の顧客が品質問題を報告します（顧客1および顧客2）。
2. サポート部門が、報告された問題に対して PSR を作成します。
3. 顧客1に PSR-1、PSR-2、顧客2に PSR-1、PSR-2 です。
4. PSR を品質分析者に提出し、品質分析者はすべての PSR を確認します。
5. PSR はすべて、異なる顧客からのものであっても同様の問題に関連しているため、品質分析者は問題を 1 つの PSR に集約して PSR-3 を作成します。
6. さらに処理するために、PSR-3 をワークフロー経由で送信します。
7. 品質管理者が品質変更要求 QCR-1 を作成します。この QCR には、この変更の対象アイテムのリストが含まれます。
8. QCR をルートします。
9. エンジニアリング・チームは要求が有効かどうかを判断し、問題に応じて変更プロセス (ECO、MCO、ECR、出荷停止、期限付き変更指示など) を決定します。
10. 問題に対処するために変更を作成します。変更分析者は、ワークフローを使用して変更をルートします。
11. 変更が実施され、問題が修正されます。変更分析者は、品質管理者に通知を送ります。品質管理者は、変更が QCR で報告された問題に実際に対処しているかどうかを確認します。
12. 品質管理者は、QCR を終了する措置を取ります。

品質関連のスマートルール

スマートルールは、Agile PLMにおいて特定の動作を管理する方法を選択するための、システム全体を通じた設定です。Agile 管理者はこれらの設定を変更できます。次のスマートルールは、Product Quality Management プロセスに関連しています。

- PSR に対する多数のアイテム
- PSR に対する多数の QCR
- アイテムと関連 PSR を含む PSR
- 未処理のアイテムとともに QCR をリリースする。

アイテムと関連 PSR を含む PSR スマートルールの例を取り上げます。

アイテムと関連 PSR を含む PSR スマートルールは、PSR の「対象アイテム」タブと「関連 PSR」タブの動作を管理します。スマートルールを「可」に設定した場合、PSR で「対象アイテム」と「関連 PSR」タブの両方が使用できます。設定しない場合は、「対象アイテム」と「関連 PSR」は相互に排他的です。つまり、「対象アイテム」タブにアイテムが表示されると、「関連 PSR」タブは利用できなくなります。「関連 PSR」タブが PSR を表示すると、「対象アイテム」タブは利用できなくなります。このため、PSR を他の PSR の集約に使用するか、またはアセンブリ・アイテムに対する問題レポートとして使用するかを選択できます。

これらのスマートルールについてのより詳細な説明は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

品質検索

特定の PSR または QCR を検索するには、「品質検索」フォルダの「簡易検索」または「詳細検索」から目的の検索を選択して検索を実行します。たとえば品質管理者が、未割当の PSR をすべて品質分析者に割り当てる必要がある場合、それらの PSR を簡易検索で見つけることができます。品質検索の例は次のとおりです。

- 未割当の製品サービス依頼
- オープン状態の製品サービス依頼
- X 時間以上前に提出された製品サービス依頼
- X 時間以上前に提出された品質変更要求
- リリース済の品質変更要求
- 終了した品質変更要求
- 未割当で提出済の品質変更要求
- オープン状態の品質変更要求

注意 「品質検索」フォルダが表示されるのは、管理者がプロファイルで検索を設定しているユーザーのみです。

「品質」タブ

特定のタブやフィールドの品質情報を、アイテム、顧客、サプライヤなどのオブジェクトに関する情報とリンクできます。その後、組織は設計の際に特定の部品を組み込むことの品質を評価できます。PSR および QCR テーブルのフィールドは、部品のフィールドと同じで、検索およびレポートでも使用できます。「品質」タブの丸い黒のアイコンは QCR または PSR が含まれていることを示しています。アイテム、顧客およびサプライヤの「品質」タブは Web クライアントのみで表示されます。

- アイテムの「品質」タブでは、このアイテムに対して報告されたすべての PSR および QCR が表示されます。
- 顧客オブジェクトの「品質」タブには、PSR と QCR の両方がリストされます。顧客から報告された品質問題は、顧客満足度を測る助けになります。
- サプライヤ・オブジェクトの「品質」タブには、PSR と QCR の両方がリストされます。サプライヤに対してファイルされた品質問題はパフォーマンスを測る助けになり、そのサプライヤの格付けまたはパフォーマンスを確立できます。

顧客およびサプライヤに対する品質問題の表示

顧客またはサプライヤに対して品質問題を表示する様々な方法を次に示します。

- **簡易検索の実行:** ホームページで PSR、QCR、顧客およびサプライヤを検索する最も速い方法です。
- **カスタム検索:** 様々なクエリーを組み合せることで、条件に一致する PSR が戻されます。たとえば、「製品サービス依頼: 顧客が Null ではない、またはサプライヤが Null ではない」のように指定します。
- **詳細検索:** 複数の条件を設定し、オブジェクトをフィルタリングすることでオブジェクトを検索する最も効率的な方法です。例:
 - 顧客/サプライヤの PSR があり、QCR が開始されているアイテム。
 - 顧客/サプライヤの PSR はあるが、QCR は開始されていないアイテム。
 - PSR および QCR があり、変更が関連付けられているアイテム。
- **部品の表示:** 部品の「品質」タブには、顧客とサプライヤの詳細とともに PSR 番号および QCR 番号が表示されます。
- **検索のパーソナライズ:** 検索をフォーマットし、「パーソナライズ」メニューを使用して目的の表示を選択します。たとえば、表示フィールドに顧客とサプライヤのすべての QCR/PSR を表示します。

品質レポート

Agile PLM は、Agile PQM でデータを分析するための標準レポートを提供しています。

Agile Web クライアントのナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」の順にクリックします。品質レポートに表示されるレポートは次のとおりです。

- 10 ページの [「不具合トレンド・レポート」](#)
- 12 ページの [「品質状況レポート」](#)
- 13 ページの [「品質バックログ・レポート」](#)
- 15 ページの [「品質サイクル時間レポート」](#)
- 17 ページの [「品質メトリックス・レポート」](#)

適切な権限がある場合、前述の各レポートではレポート・ウィザードが実行されます。ウィザードに従って操作します。プロセスの終了時にレポートが表示されます。レポートは、印刷したり、内容をエクスポートしたり、保存できます。実行済のレポート出力は、Web クライアントにのみ表示されます。

品質レポートには次のタブがあります。

一般情報: レポートに関する一般的な詳細が表示されます。Agile 管理者は、「一般情報」タブのフィールドを設定します。

レイアウト タブ: 「レイアウト」タブでは、必要に応じて、標準またはカスタマイズされたレポート・レイアウトでフィールドを追加または編集できます。レイアウトを編集するには、適切な権限が必要です。

スケジュール: 「スケジュール」タブでは、特定のスケジュールを使用して、または特定の日時にレポートを実行できます。

履歴レポート: 「履歴レポート」タブには、以前に実行されたすべてのレポートが表示されます。日付、時刻およびレポートを実行するユーザーの名前とともに保存済のレポートが表示されます。

履歴: 「履歴」タブには、レポートに対して行われる処置の要約が表示されます。

品質レポートのタブの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

不具合トレンド・レポート

不具合トレンド・レポートには、不良モードの経時的な傾向が表示されます。このレポートの結果に基づいて、製品の品質に最も大きく影響するアイテムに対する是正処置に労力を集中できます。

指定期間中に対象となった数量のレポートを作成するために、**製品サービス依頼**には「対象アイテム」の「対象となった数量」フィールドで指定された値を記載する必要があります。レポートを実行するために必要な権限を取得していることを確認してください。

不具合トレンド・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」>「不具合トレンド・レポート」にナビゲートします。
2. 「実行」ボタンをクリックします。「不具合トレンド・レポートの実行」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
 - a. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタン  をクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
 - b. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置することもできます。
 - c. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
4. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタン  をクリックします。レイアウト表示パレットが開きます。
6. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
9. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

10. 「次」をクリックします。
11. 「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。不具合トレンド・レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
 - a. すべての PSR から選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 既存の PSR から選択する場合は、「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」パレット  をクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
 - e. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - f. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。

注意 「検索」パレットの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

12. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを編集します。
13. 「レポートの定義」ページが表示されます。
「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダをクリックし、「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダをクリックし、「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
14. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
15. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
16. 「添付ファイルの取出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質状況レポート

品質状況レポートには、一定期間中に処理された品質問題（製品サービス依頼および品質変更要求）が表示されます。

品質状況レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」>「品質状況レポート」にナビゲートします。

注意 レポートの実行方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「レポートを使用する」を参照してください。

2. 「実行」をクリックします。「品質状況レポートの実行」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタン  をクリックします。「デフォルトのレイアウト(PSR)」パレットが開きます。該当するフィールドを変更します。
5. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置することもできます。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
6. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。

- f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
- g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタン  をクリックします。レイアウト表示パレットが表示されます。
8. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
- 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
9. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
- 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - 「アクセス」のタイプを選択します。
 - リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - 「レイアウト」タイプを選択します。
 - レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
10. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
11. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

12. 「次」をクリックします。
13. 「期間の選択」ページが表示されます。
- カレンダをクリックし、「開始」の日付を選択します。
 - 対象期間を表示するには、カレンダをクリックし、「終了」の日付を選択します。
14. 「次」をクリックします。
15. 「追加のパラメータを選択」ページが表示されます。ワークフローとステータスの変更条件フレームで、次の手順を実行します。
- 「ワークフロー・タイプ」リストからワークフローを選択します。
 - 「検索」パレット  をクリックして、「変更後のステータス」フィールドに変更内容を反映します。「変更」パレットが表示されます。アイテムを選択してダブルクリックし、「変更後のステータス」フィールドに移動します。
 - 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
- 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。
16. レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質バックログ・レポート

品質バックログ・レポートには、一定期間中に次のステータスへの移行が行われなかった、特定のステータスの問題が表示されます。

品質バックログ・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」>「品質バックログ・レポート」に移動します。
2. 「実行」ボタンをクリックします。「品質バックログ・レポート」ウィザードが開きます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
 - a. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタンをクリックします。「デフォルトのレイアウト」パレットが開きます。該当するフィールドを変更します。
 - b. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - c. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
4. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 新しいレイアウトを作成するには、「作成」ボタンをクリックします。レイアウト表示パレットが開きます。
6. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
7. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
9. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

10. 「次」をクリックします。
11. 「クエリーの選択または作成」フレームが表示されます。品質バックログ・レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
 - a. すべてのPSRから選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」パレットをクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。

12. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
 - a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
 13. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを変更します。「レポートの定義」フレームが表示されます。
 14. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
 15. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「開始ステータス」を選択します。
 - c. 「変更後のステータス」を選択します。
 16. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
 17. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
 18. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。
- 保存:** レポートを「履歴レポート」タブに保存します。
- 印刷:** 生成されたレポートを印刷します。
- エクスポート:** レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質サイクル時間レポート

品質サイクル時間レポートは、指定した製品サービス依頼と品質変更要求 (PSR と QCR) が、指定した期間内に別のステータスに移行する際に要する時間を計算します。

このレポートは、依頼と、それぞれの PSR または QCR が 2 つのステータス間の推移に要する平均時間を期間ごとに表示します。たとえば、PSR や QCR がこの 1 年間に「提出済」から「リリース済」に移行する際に要した平均時間が、月ごとに製品ライン別にまとめて表示されます。

品質サイクル時間レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」>「品質サイクル時間レポート」に移動します。
2. 「実行」をクリックします。「品質サイクル時間レポート」ウィザードが表示されます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」ボタン  をクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
 - 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。

- a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
6. または、「作成」ボタン  をクリックして新しいレイアウトを作成します。レイアウト表示パレットが開きます。
7. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 非表示のプロパティ列からプロパティを選択し、右矢印を使用して表示プロパティ列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または降順に配置します。
8. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
9. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
10. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

11. 「次」をクリックします。
12. 「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。品質サイクル時間レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
 - a. すべてのPSRから選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - b. 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 「検索」  パレットをクリックし、「保存された検索」リストから値を選択します。
 - d. 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
13. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
 - a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
14. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを変更します。「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。
15. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
16. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。

- a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「開始ステータス」を選択します。
 - c. 「変更後のステータス」を選択します。
17. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
18. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
19. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。
- 保存:** レポートを「履歴レポート」タブに保存します。
- 印刷:** 生成されたレポートを印刷します。
- エクスポート:** レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

品質メトリックス・レポート

品質メトリックス・レポートには、指定された期間中に特定のステータスに移動した品質問題（製品サービス依頼および品質変更要求）が表示されます。

品質メトリックス・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで、「レポート」>「レポートと分析」>「標準レポート」>「品質レポート」>「品質メトリックス・レポート」に移動します。
2. 「実行」をクリックします。「品質メトリックス・レポート」ウィザードが表示されます。
3. 「レイアウトと環境設定の選択」ページで、リストから「レイアウト」を選択します。
4. 既存のレイアウトを変更するには、「編集」 ボタンをクリックします。「デフォルトのレイアウト」ダイアログ・ボックスが開きます。目的のフィールドを変更します。
 - a. 「非表示のフィールド」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示フィールド」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
5. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。
 - b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存するか、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
6. または、「作成」ボタン をクリックして新しいレイアウトを作成します。レイアウト表示パレットが開きます。
7. 「フォーマット」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「非表示のプロパティ」列からプロパティを選択し、右矢印を使用して「表示プロパティ」列に移動します。矢印を使用して、プロパティを適切な昇順または昇順に配置します。
 - b. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
8. 「プロパティ」フレームで、次の手順を実行します。
 - a. 「名前」フィールドに名前を入力します。

- b. 「アクセス」のタイプを選択します。
 - c. リストから「用紙サイズ」を選択します。
 - d. 用紙の「用紙の向き」を選択します。
 - e. 「レイアウト・タイプ」を選択します。
 - f. レポートのフォーマットで「表示」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックして変更内容を保存し、「閉じる」をクリックしてパレットを閉じます。
9. 「出力フォーマット」リストから、生成されたレポートのフォーマットを選択します。フォーマットのリスト (pdf、Word、Excel、HTML および標準) から選択します。
10. 生成されたレポートを保存するには、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスを選択します。

注意 「標準」出力フォーマットを選択した場合、「履歴レポートにレポートのコピーを保存」チェック・ボックスは表示されません。

11. 「次」をクリックします。
「クエリーの選択または作成」ページが表示されます。品質メトリックス・レポートでは、レポートで使用する製品サービス依頼を検索できます。
- すべての PSR から選択するには、「すべての製品サービス依頼」チェック・ボックスを選択します。
 - 「保存された検索」チェック・ボックスを選択します。
 - 「検索」パレット  をクリックし、「保存された検索」のリストから値を選択します。
 - 「詳細検索」チェック・ボックスを選択します。
12. 「クエリーの定義」をクリックします。レポート検索パレットが開きます。
- a. リストから選択するか、クエリーを定義するために必要な詳細情報を入力します。
 - b. 選択内容をクリアする場合は「クリア」、続行する場合は「完了」、パレットを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
13. 「次」をクリックして次のステップに進むか、「戻る」をクリックしてクエリーを編集します。「レポートの定義」ページが表示されます。
14. 「対象期間」フレームで、次の手順を実行します。
- a. カレンダを使用して「開始」の日付を選択します。
 - b. カレンダを使用して「終了」の日付を選択します。
 - c. リストから「時間単位」を選択します。
15. 「ステータスの変更」フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。
 - b. 「ステータス・タイプ」からステータスを選択します。
16. 追加のレポート条件フレームで、次の手順を実行します。
- a. 「トレンド」リストから値を選択します。
 - b. 「製品サービス依頼」を表示するチェック・ボックスを選択します。
 - c. 「空のカラムを除外」チェック・ボックスを選択します。
17. 「完了」をクリックして、レポートを表示します。
18. 「添付ファイルの取り出し」ダイアログ・ボックスが表示され、レポートをダウンロードするように促されます。

レポートを保存、印刷またはエクスポートするには、生成されたレポートの上部に表示されるボタンをクリックします。レポートを保存せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、レポートが失われます。

保存: レポートを「履歴レポート」タブに保存します。

印刷: 生成されたレポートを印刷します。

エクスポート: レポートの内容を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel ワークブックにエクスポートします。

製品サービス依頼 (PSR) を使用する

この章のトピック

▪ PSR を作成する	19
▪ PSR の「カバー・ページ」タブ	23
▪ PSR の「対象アイテム」タブ	26
▪ 「関連 PSR」タブ	30
▪ 「関係」タブ	35
▪ PSR の「ワークフロー」タブ	45
▪ PSR の「添付ファイル」タブ	47

PSR を作成する

製品サービス依頼 (PSR) の作成は、問題の品質によって異なります。PSR では、1 つの品質問題、または 1 つの PSR を持つ複数の問題を報告できます。PSR を作成するには、必要な役割と権限を持っている必要があります。役割と権限の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

注意 品質分析者の役割がある場合、PSR について必要なすべての処置を作成、編集、削除および実行できます。

製品サービス依頼の作成

「ホーム」ページの「新規作成」機能により、PSR を作成できます。

Java クライアントで PSR を作成するには

1. Agile Java クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーで、「ファイル」>「新規」>「製品サービス依頼」>「問題レポート」の順にクリックします。
3. 表示される「新規」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します。
 - a. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
 - b. 「番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
 - c. リストから「品質分析者」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

カバー・ページの詳細は、23 ページの [「PSR の「カバー・ページ」タブ」](#) を参照してください。

Agile Web クライアントで PSR を作成するには

1. Agile Web クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーで、「新規作成」メニューをクリックします。
3. ドロップダウン・メニューから「製品サービス依頼」>「問題レポート」または「不具合レポート」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
5. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
6. 「保存」をクリックします。

Agile Web クライアントが **PSR** を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

PSR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスが表示されます。

PSRにワークフローを割り当てるには

1. **PSR** を開き、「編集」ボタンをクリックします。
2. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。詳細は、45 ページの [「PSR の「ワークフロー」タブ」](#) を参照してください。
3. 「保存」をクリックします。

保存された **PSR** のステータスがページの右隅に表示されます。たとえば、割り当てられるステータスは「保留中」、「提出済」、「レビュー」または「リリース済」です。

アイテムからの PSR の作成

適切な権限を持っている場合、アイテムから **PSR** を作成できます。

JavaクライアントでアイテムからPSRを作成するには

1. **PSR** を作成するアイテムを開きます。
2. 「アクション」メニューから「新規 PSR の作成」を選択します。
3. 「新規」ダイアログで、次の手順を実行します。
 - a. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
 - b. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
 - c. リストから「品質分析者」を選択します。
 - d. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが **PSR** を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」タブを最前面にして表示されます。

4. 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
5. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

新規 **PSR** の「対象アイテム」タブにアイテムが表示されます。

WebクライアントでアイテムからPSRを作成するには

1. **PSR** を作成するアイテムを開きます。
2. 「アイテム」ページで、「アクション」>「新規作成」>「製品サービス依頼」の順に選択します。「新規作成」ページが表示されます。
3. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
4. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
5. **PSR** が編集モードで開きます。「保存」をクリックして変更内容を保存します。
6. **PSR** に「カバー・ページ」が表示されます。**PSR** の「対象アイテム」テーブルにアイテムが表示されます。

Agile Web クライアントが **PSR** を作成し、PSR が「カバー・ページ」タブを最前面にして表示されます。新規 **PSR** の「対象アイテム」タブにアイテムが表示されます。

他の複数の PSR を集約する PSR の作成

たとえば、ある会社の品質分析者であると想定します。分析者は、サプライヤから納品された出荷の中に、マテリアルの含有基準に適合していないものがあることに気付きました。この場合、これらの問題を追跡して集約し、单一の **PSR** を作成できます。

作成する単一の **PSR** は、親 **PSR** になります。「関連 PSR」タブに追加されたすべての **PSR** は、子 **PSR** です。

注意 「アイテムと関連 PSR を含む PSR」スマートルール設定を有効にするか無効にするかによって、「関連 PSR」を追加した後に「対象アイテム」を有効または無効にできます。

Javaクライアントで複数のPSRを集約するPSRを作成するには

- 新しい PSR の基本となる PSR を開くか、「ファイル」>「名前を付けて保存」の順に選択するか、または右クリックして「名前を付けて保存」を選択します。21 ページの「[「名前を付けて保存」を使用した PSR の作成](#)」も参照してください。
- PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。「対象アイテム」タブでは、アイテムを追加しないでください。「関連 PSR」タブで、関連 PSR を追加します。
- 「追加」をクリックして関連 PSR を追加します。

この親 PSR に関連 PSR を追加した後、「関連 PSR」タブの各子 PSR の「集約 PSR 番号」列には、親 PSR の番号が表示されます。

Webクライアントで複数のPSRを集約するPSRを作成するには

- 新規 PSR の基本となる PSR を開くか、または「アクション」>「名前を付けて保存」の順に選択します。「名前を付けて保存」ページが表示されます。
- PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。「対象アイテム」タブでは、アイテムを追加しないでください。「関連 PSR」タブで、関連 PSR を追加します。
- 「追加」をクリックして、関連 PSR を追加します。[Ctrl]+[I]キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。
 - 値を入力し、「検索して追加」ボタン  をクリックして検索パレットを起動します。
 - 新しい PSR を作成するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。

関連する PSR を親 PSR に追加した後、「関連 PSR」タブの各 PSR の「集約 PSR 番号」列に親 PSR の番号が表示されます。子 PSR の「カバー・ページ」では、「集約 PSR 番号」フィールドにこの親 PSR の番号が自動的に表示されます。

フィールド	設定方法	内容
PSR イベント	手動	自動ワークフロー・イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス。リストから利用可能なステータスを選択します。PSR にワークフローが割り当てられている場合、ステータスを指定できます。このイベントの発生は、PSR が指定のステータスに達したことを意味します。 注意 「カバー・ページ」で親と子の両方のオブジェクトにワークフローを割り当てる場合のみ、「PSR イベント」のステータスを指定できます。
PSR 結果	手動	「イベント」ステータスに達したときに、関連 PSR が昇格されるステータス。親 PSR が「PSR イベント」フィールドで指定されたステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに移行します。 注意 「カバー・ページ」で親と子の両方のオブジェクトにワークフローを割り当てる場合のみ、「PSR イベント」のステータスを指定できます。

「名前を付けて保存」を使用した PSR の作成

「名前を付けて保存」機能を使用すると、既存の PSR に類似した PSR を簡単に作成できます。「名前を付けて保存」機能は、既存の PSR のフィールドから新しい PSR の同じフィールドにデータをコピーします。新しい PSR で既存の PSR のフィールドまたはリストを使用できない場合、フィールドまたはデータは新しい PSR にコピーされません。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」を使用してPSRを作成するには

- 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
- 「ファイル」>「名前を付けて保存」の順に選択するか、または右クリックして「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- a. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
- b. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
- c. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが PSR を作成し、PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

3. 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
4. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

Webクライアントで「名前を付けて保存」を使用してPSRを作成するには

1. 新規 PSR の基本となる PSR を開きます。
2. 「アクション」>「名前を付けて保存」の順に選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「タイプ」リストから目的のサブクラス (NCR または問題レポート) を選択します。
4. 「PSR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
5. 元の PSR に添付ファイルが含まれる場合、フレームには次のオプションが表示されます。
 - 既存ファイルを参照: 新しい PSR の「添付ファイル」タブに表示される既存のファイル・フォルダへの新しい参照を作成します。
 - ファイルの新規コピーを作成: 添付ファイルの新しいコピーを作成し、新たに作成されたファイル・フォルダに配置します。
 - ファイルを含めない: 添付ファイルのない新しい PSR を作成します。
6. 「保存」をクリックします。PSR が編集モードで「カバー・ページ」とともに開きます。
7. 「カバー・ページ」タブの関連するフィールドに値を入力します。
8. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 一般に、クラスやサブクラスが元のオブジェクトと異なるオブジェクトを作成する場合は、「名前を付けて保存」機能は使用しないでください。クラスやサブクラスが違うと、タブや定義されるフィールドが異なる場合があり、新しく作成したオブジェクトの一部のデータにアクセスできなくなることがあります。

旧オブジェクトからコピーされるフィールド	事前に入力されるフィールド
「カテゴリ」、「PSR タイプ」、「問題の説明」、「重大度」、「製品ライン」	作成者
「ページ 2」および「ページ 3」のユーザー設定フィールド	作成日
すべてのアイテム情報を「対象アイテム」タブよりコピー	「ステータス」フィールドは、デフォルトで「未割当」に設定される
すべての添付ファイルを「添付ファイル」タブよりコピー	
「履歴」タブはソース・オブジェクトとターゲット・オブジェクトを反映	

Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、新しい PSR では、オプションの「ページ 2」と「ページ 3」セクションのフィールドがコピーされます。「ページ 3」のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、「名前を付けて保存」を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、「ページ 3」のデータは新規オブジェクトにコピーされません。使用中の Agile PLM システムにおける「ページ 2」と「ページ 3」フィールドの動作については、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

作成した PSR は、ユーザーが削除するまでシステムに残ります。PSR を削除しても、Agile データベースからは削除されません。PSR を完全に削除するには、ハード削除する必要があります。PSR および QCR の削除の詳細は、69 ページの「[Agile オブジェクトの削除](#)」を参照してください。

PSR または QCR の検索

Agile PLM では、**簡易検索**、**カスタム検索**および**詳細検索**によってオブジェクトを検索できます。

- 「**簡易検索の実行**」ボタンをクリックすると、最も速い方法でオブジェクトを検索できます。
- 「**カスタム検索**」 ([Ctrl]+[Shift]+[Q]) ボタンをクリックすると、検索条件をカスタマイズしてオブジェクトを検索できます。「検索結果」には、条件に一致するオブジェクトが表示されます。
- 「**詳細検索**」ボタンをクリックすると、複数の検索条件を指定して特定のオブジェクトを検索できます。

簡易検索を実行するには

1. オブジェクトを選択し、ワイルドカード (*) を入力します。
2. 「**簡易検索の実行**」ボタンをクリックします。「検索結果」で、オブジェクトのリストが返されます。

注意 必要に応じて、「**詳細検索に変換**」オプションを選択します。

詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「検索」を参照してください。

PSR の「カバー・ページ」タブ

次の表では、PSR の「カバー・ページ」タブのフィールドについて説明し、製品サービス依頼の各タブの使用について説明します。

フィールド	設定方法	内容
PSR 番号	作成時に自動入力 注意 Java クライアントの「自動生成」を「はい」に設定すると、番号が自動的に生成されます。そうしない場合は、PSR 番号を手動で入力する必要があります。	PSR の作成時に割り当てられる番号。 問題レポートのときは、番号の前に「PR」が付きます。 不具合レポートのときは、番号の前に「NCR」が付きます。
PSR タイプ	作成時に自動入力	PSR の作成時に選択したタイプ (サブクラス)。
カテゴリ	手動	Agile PLM 管理者によって定義されたカテゴリのリスト。例: 顧客の苦情 検証 - 社外 予防策
説明	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)	Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまで入力できます。
顧客	手動	この PSR に関する顧客のリスト。
サプライヤ	手動	問題が発生したサプライヤのリスト、または問題の原因。
重大度	手動	Agile PLM 管理者によって定義された重大度のリスト。
対応策	手動	Agile PLM 管理者によって定義された対応策のリスト。「対応策」フィールドは、PSR の解決方法を示すコードを表示します。対応策の例には、「コンポーネントの置換」、「仕様へのリワーク」などがあります。

フィールド	設定方法	内容
予定解決日	手動	PSR の解決予定日。
品質分析者	ワークフローにより自動入力されます。またはリストから手動で選択することもできます。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名が表示されます。	デフォルトの品質分析者。 デフォルトの品質分析者に通知するよう にワークフローが定義されている場合、こ のフィールドの部署またはユーザーは PSR に関する通知を受信します。この フィールドを空白にすると、リストのすべ ての品質分析者に通知が送信されます。 ワークフローが「保留中」ステータスで、 品質分析者が定義されている場合、その ユーザーが通知を受信します。 ワークフローの通知定義が空白の場合、 通知は送信されません。
ワークフロー	PSR に複数のワークフローが適用さ れている場合は、手動でワークフロー を選択します。ワークフローは、PSR が「保留中」ステータスであるかぎり、 いつでも変更できます。 ワークフローを割り当てずに、PSR を 「未割当」ステータスから次のステー タスに移動することはできません。	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を 処理するために使用されるワークフ ローの名前。
ステータス	作成時に自動入力	PSR の現在のワークフロー・ステータ ス。ワークフローが選択されていない場 合、ステータスは「未割当」のままです。
作成者	作成時に自動入力。	デフォルトの PSR 作成者。その他の問題 レポート作成者のリストも含まれます。
作成日	通常は作成時に自動入力	PSR を作成した日付。
提出日	ワークフロー・ステータスに基づいて 自動生成	PSR がワークフローで「提出済」ステー タスに移行した日付。
リリース日	ワークフロー・ステータスに基づいて 自動生成	PSR がワークフローで「リリース済」ス テータスに移行した日付。
最終完了日	ワークフロー・ステータスに基づいて 自動生成	PSR がワークフローで「完了」ステータ スに移行した日付。
集約 PSR 番号	PSR が「関連 PSR」タブに追加され るときに自動入力。	親 PSR 番号が自動的に入力されます。
製品ライン	手動	この PSR が影響する製品ライン。

PSR のカバー・ページの更新

PSR を作成した後、PSR の作成時に含めなかつた追加情報を指定して PSR を変更したり、PSR の作成後に変更
された情報を編集できます。「カバー・ページ」でフィールドを複数回変更できます。「PSR タイプ」のよう
に、「カバー・ページ」の一部のフィールドは自動的に入力されます。

JavaクライアントでPSRのカバー・ページを編集するには

1. PSRを開きます。「PSR番号」と「PSRタイプ」フィールドは事前に入力されています。
2. 「カテゴリ」フィールドでリストから値を選択します。
3. 「説明」フィールドにテキストを入力します。
4. 顧客を検索するには、リンクをクリックします。
5. 「オブジェクトの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。「*」を入力し、「検索」ボタンをクリックします。
6. 「検索結果」リストからオブジェクトを選択し、矢印を使用して「選択したオブジェクト」列に移動します。
7. 「OK」をクリックします。

または

- 「保存された検索」タブをクリックし、使用可能なフォルダを検索します。
 - 「ショートカット」タブをクリックし、「最近訪れたところ」フォルダと「ブックマーク」フォルダを検索します。
 - 「詳細検索」リンクをクリックします。
 - 「詳細検索」ダイアログ・ボックスで、「新規作成」または「保存した検索を使用」オプションを選択します。
 - 必要に応じて、リストから選択するか、またはテキストを入力します。
 - 検索を実行する場合は「実行」、変更内容を保存する場合は「保存」、条件を追加する場合は「詳細」、ダイアログ・ボックスを閉じる場合は「閉じる」をクリックします。
 - 「OK」をクリックして変更内容を保存するか、「キャンセル」をクリックして「カバー・ページ」に戻ります。
8. リストから PSR の「重大度」を選択します。
 9. リストから「対応策」を選択します。
 10. カレンダー  を使用して、「予定解決日」を選択します。
 11. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

「カバー・ページ」に変更された値が表示されます。

WebクライアントでPSRのカバー・ページを編集するには

1. PSRを開き、「編集」ボタンをクリックしてPSRを変更します。
2. 「PSR番号」と「PSRタイプ」番号フィールドは自動的に入力されます。
3. 「カテゴリ」フィールドでリストから値を選択します。
4. 「説明」フィールドにテキストを入力します。
5. 顧客とサプライヤを検索するには、次のいずれかの操作を行います。
 - a. 「顧客」/「サプライヤ」フィールドの横の「検索」ボタン  をクリックし、検索パレットを起動して既存の顧客またはサプライヤを検索します。
 - b. 「作成して追加」ボタン  をクリックして、新しい顧客またはサプライヤを作成します。「検索」パレットでは、データベースのデータをフィルタリング、検索または参照できます。
 - c. 「顧客」/「サプライヤ」フィールドの横の「検索して追加」ボタン  をクリックし、検索パレットを起動して既存の顧客またはサプライヤを検索します。[Ctrl]+[L]キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。
 - d. 既知の値を入力するか、「*」を入力して、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。

- e. 表示されるリストから「顧客」または「サプライヤ」を選択します。顧客またはサプライヤを「カバー・ページ」フィールドに移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
- f. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

新しい顧客を作成するには

- a. 「作成して追加」ボタン  をクリックして、新しい顧客またはサプライヤを作成します。
- b. 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストから「顧客」を選択します。
- c. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックします。
- d. 「顧客名」を入力します。
- e. 「保存」をクリックします。

注意 「顧客」オブジェクトが「品質」タブの **PSR** を自動的に表示します。

6. リストから **PSR** の「重大度」を選択します。
7. リストから「対応策」を選択します。
8. カレンダー  をクリックし、解決日を選択します。[Ctrl]+[L]キーを使用して、カレンダーを呼び出すこともできます。
9. リストから「ワークフロー」を選択します。**PSR** が次のステータスに移行すると、ワークフロー・ステータスが自動的に更新されます。
10. 「作成者」および「品質分析者」フィールドは事前に定義されています。
11.  パレットをクリックし、この **PSR** が影響する1つ以上の「製品ライン」を選択します。
12. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

「カバー・ページ」に変更された値が表示されます。

PSR の「対象アイテム」タブ

PSR の「対象アイテム」タブには、現在の **PSR** の影響を受けるアイテムのリストが表示されます。単一の **PSR** によって複数のアイテム（部品やドキュメント）に影響を与えることができます。「関係」タブに **PSR** を追加すると、「PSR アイテム」テーブルも表示されます。

注意 **PSR** がワークフローの「リリース済」ステータスではない場合のみ、対象となるアイテムを追加できます。

解決の必要なその他のアイテム（部品、ドキュメント、アセンブリなど）を「対象アイテム」タブに追加できます。QCR にも同じことが当てはまります。新たに作成された **PSR** を、作成後に変更された情報で変更できます。

NCR の「対象アイテム」タブに表示されるいくつかのフィールドは、**PR** とは異なります。次の表に、**NCR** のその他のフィールドを示します。これらのフィールドは、製品の期限付き変更指示に関する追加情報を提供します。

「対象アイテム」テーブルでは、次のフィールドがデフォルトで表示および記述されています。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力。	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力。	アイテムの説明。

フィールド	設定方法	内容
見つかったリビジョン	手動	対象アイテムの問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。たとえば、アイテムが5回改訂され、リビジョンBで欠陥が特定された場合、「見つかったリビジョン」には、「B」が表示されます。 Webクライアントでは、追加するアイテムを選択すると、このアイテムのすべてのリビジョンがドロップダウン・リストに表示されます。デフォルトでは最新リビジョンが表示されます。 注意 アイテムの複数のコピーを同一リビジョンで「対象アイテム」タブに追加できます。
対象拠点	作成時に自動入力。	対象アイテムに問題がある拠点。
不良モード	手動	製品が故障した理由、または顧客の要件を満たさなかった理由を表示します。不良モードは、Agile管理者によって定義されたリストから選択します。アイテムのサブクラスごとに不良モードのリストを定義できます。 たとえば、バッテリの不良モードには「充電切れ」、電源コードの不良モードとしては「ヒューズが飛んだ」などを定義します。
対象となった数量	手動	品質問題の対象となったアイテムの数。
修正リビジョン	自動。リビジョンの問題を解決したとき。手動で変更することもできます。	問題が修正されたアイテムのリビジョン。このフィールドは、ユーザーが手動で更新するか、ECOのリリース時に自動的に入力されます。

注意 「アイテム番号」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順  または降順  を示します。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後のステージで、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

NCRの「対象アイテム」タブの属性

NCRの属性と操作は、「対象アイテム」タブの一部のフィールドを除いて、問題レポートと同じです。これらのフィールドは、1つ、または複数製品の期限付き変更指示に関する追加情報を提供します。

次の表では、品質保証部門がサプライヤから出荷されたマテリアルを検査するプロセスのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
適合含有基準	手動	マテリアルの適合含有基準情報。
シリアル/ロット番号	手動	欠陥のあるバッチのアイテムのシリアル番号またはロット番号（製品のバッチに固有の識別子と同じ番号）。
合計数量予想	手動	問題があると予想される合計数量。 受け取った500ユニットのロットから20ユニットを検査し、5ユニットに欠陥が発見された場合の例 合計数量予想 500、確認済数量 20、対象となった数量 5
確認済数量	手動	検査したアイテムの数。

フィールド	設定方法	内容
対象となった数量	手動	問題の影響を受けたアイテムの実数。
暫定処置	手動	マテリアルに対して行われる暫定処置。
RMA 番号	手動	商品返品の確認。欠陥のあるマテリアルの返却を許可するためにサプライヤが発行する番号。
マテリアル合格日	手動	含有基準に適合したマテリアルをサプライヤが配送できる予定日。

PSR の「対象アイテム」タブへのアイテムの追加

「対象アイテム」テーブルの「追加」ボタンを使用して、PSR にアイテムを追加できます。既存のアイテムを検索することも、新規アイテムを作成することもできます。アイテムには部品と BOM が含まれます。

Java クライアントで「対象アイテム」タブにアイテムを追加するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 「追加」ドロップダウン  をクリックし、「作成」ボタン  を選択して新しいアイテムを作成するか、「検索」ボタン  を選択して 1 つ以上の既存のアイテムを検索するか、「既知の番号の入力」
 を選択して既知のアイテムを検索します。

アイテムを作成するには

1. 「タイプ」リストからタイプを選択します。
2. 適切な場合は、アイテムの番号と説明を入力してください。
3. 「OK」をクリックします。

アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

既存のアイテムを検索するには

1. 「対象アイテムの追加」ダイアログ・ボックスから検索方法を選択します。
2. 簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、ブックマークを付けたアイテムの選択、または「最近訪れたところ」フォルダからの選択も行えます。
3. 検索結果からアイテムを選択します。右矢印を使用するか、選択したアイテムをダブルクリックして、関連するアイテムの選択列に移動します。
4. 異なるアイテム・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「追加後、行を編集」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
5. 「OK」をクリックします。

「選択された対象アイテム」リストのアイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

既知の番号を入力するには

1. 1 つ以上の番号をそれぞれの行に入力し、「追加」をクリックします。
2. アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

注意 リストからオプションを選択せずに「追加」ボタンを 1 回クリックすると、「既知の番号の入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Web クライアントで PSR の「対象アイテム」タブにアイテムを追加するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 「対象アイテム」タブの「追加」をクリックします。

- 検索パレットを起動して既存のアイテムを検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。
- 新しいアイテムを作成するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
- 「最近訪れたところ」フォルダからアイテムを選択し、「対象アイテム」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
- PSR に表示されているアイテムをコピーし、別の PSR の「対象アイテム」テーブルに貼り付けます。

既存のアイテムを検索するには

1. 「検索して追加」ボタン  をクリックして、検索パレットを起動します。[Ctrl]+[I]キーを使用して、検索フィールドを呼び出すこともできます。
2. 値または「*」を入力して検索を実行し、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。
3. 表示されるリストからアイテムを選択します。アイテムを「対象アイテム」テーブルに移動するには、次のいずれかを実行します。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
4. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

アイテムを作成するには

1. 「作成して追加」ボタン  をクリックします。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストから「アイテム」を選択します。
3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックします。
4. 「説明」フィールドに詳細を入力します。
5. 「追加」をクリックしてアイテムをテーブルに追加するか、「キャンセル」をクリックして「対象アイテム」テーブルに戻ります。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

オブジェクトをコピーして貼り付けるには

1. PSR の「対象アイテム」テーブルからアイテムを選択します（オブジェクトは「関連 PSR」タブ、「関係」タブまたは PSR の「添付ファイル」タブから取得されるか、または別のオブジェクトから取得されます）。
2. 「詳細」ボタンをクリックし、「コピー」を選択します。
3. 別の PSR の「対象アイテム」タブにナビゲートします。
4. 「詳細」ボタンをクリックし、「貼付け」を選択します。
アイテムが「対象アイテム」テーブルに表示されます。

注意 「PSR に対する多数のアイテム」という Agile PLM スマートルールが、複数のアイテムを PSR の「対象アイテム」タブに追加するかどうかを決定します。「PSR に対する多数のアイテム」が「可」と設定されている場合、1つ以上のアイテムを PSR に追加できます。それ以外の場合、PSR に追加できるのは1つのアイテム（1行）のみに制限されます。

「対象アイテム」タブからのアイテムの削除

Javaクライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 削除するアイテムの行を選択します。

3. 「削除」ボタン  をクリックします。
4. メッセージ・プロンプト・ボックスの「OK」をクリックしてアイテムの削除を確認します。

Webクライアントで「対象アイテム」タブからアイテムを削除するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 削除するアイテムの行を選択します。
3. 「削除」をクリックします。

テーブルから削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。

「対象アイテム」タブのアイテムの編集

アイテムが「リリース済」ステータスでないかぎり、必要に応じて「対象アイテム」タブのアイテムを複数回編集できます。フィールドを編集して、情報を追加したり、既存の情報を変更できます。

Javaクライアントで「対象アイテム」タブのアイテムを編集するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 編集するアイテム行を選択します。
3. 「対象アイテムの編集」ボタン  をクリックします。「対象アイテムの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 行のセルをダブルクリックし、該当するフィールドを編集します。
5. テキストを変更するか、リストを使用して値を選択します。
または、セルをダブルクリックし、内容を編集して[Enter]を押します。
6. 編集を完了したら、「OK」をクリックします。

フィールドの詳細は、26 ページの「[PSR の「対象アイテム」タブ](#)」を参照してください。

注意 「修正リビジョン」を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が「最新の変更」フィールドに自動的に入力されます。「修正リビジョン」のドロップダウン・リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。

たとえば、次の場合に「修正リビジョン」フィールドを手動で更新できます。

- 品質問題を提出し、既知の修正をリリースまたは実施している場合。この場合、「修正リビジョン」フィールドを更新するだけで、この問題が対処済でありその特定リビジョンで修正されていることを反映できます。
- 親を持たず、そして変更や QCR と関連付けられていない PSR を更新します。

Webクライアントで「対象アイテム」タブのアイテムを編集するには

1. PSR を開き、「対象アイテム」タブをクリックします。
2. 編集する行を選択します。
3. 該当するフィールドを編集するには、セルをダブルクリックします。または、セルにナビゲートして[Enter]を押します。
4. テキストを入力するか、リストを使用して値を選択します。
5. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 「修正リビジョン」を手動で更新すると、そのリビジョン変更に関連する ECO が「最新の変更」フィールドに自動的に入力されます。「修正リビジョン」のドロップダウン・リストには、このアイテムのすべてのリビジョンが含まれます。

「関連 PSR」タブ

「関連 PSR」タブには、単一の親 PSR に集約される PSR のリストが表示されます。情報を編集し、関連 PSR を親 PSR に集約します。

たとえば、複数の顧客が似たような問題を報告した場合、報告された各問題に対して問題レポートが作成されます。品質チームは、問題に関連性があり、1つの解決策で解決可能であることに気付きます。問題を解決するために、品質チームは1つの **PSR** (親 PSR) を作成し、関連 PSR を親 PSR に追加 (集約) します。

「**関連 PSR**」タブには、次の列がデフォルトで含まれます。次の表に、列を示して説明します。

フィールド	設定方法	内容
適合した PSR 条件	PSR イベント条件が満たされた場合、自動入力	PSR イベントが発生した (親 PSR が PSR イベントについて選択されたステータスに達した) ことを示します。親 PSR が、「PSR イベント」フィールドで指定されたステータスに達すると、関連 PSR ステータスが、「PSR 結果」フィールドで指定されたステータスに自動的に移行し、所定の条件を満たします。
イベント	手動	自動ワークフロー・イベントのきっかけとなる親 PSR のステータス。リストから利用可能なステータスを選択します。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定できます。このイベントの発生は、PSR が指定のステータスに達したことを意味します。 PSR イベントのデフォルトは「終了」ステータスに設定されています。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定できます。 注意 「PSR イベント」のステータスを指定できるのは、「カバー・ページ」タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみです。
結果	手動	イベント・ステータスに達した時点で、関連 PSR が昇格するステータス。リストから利用可能なステータスを選択します。PSR にワークフローが割り当てられている場合にのみステータスを指定できます。 親 PSR が「PSR イベント」ステータスに達すると、関連 PSR のステータスは、このフィールドで指定した結果ステータスに自動的に移行します。 PSR 結果のデフォルトは「終了」ステータスに設定されています。品質分析権限がある場合、Java クライアントでデフォルト値を別のステータスに設定できます。 注意 「PSR 結果」のステータスを指定できるのは、「カバー・ページ」タブで親と子の両方のオブジェクトにワークフローが割り当てられている場合のみです。
PSR タイプ	自動	PSR のタイプ。
PSR 番号	PSR 番号の入力時に手動で入力	関連 PSR の番号。
PSR カテゴリ	自動	関連 PSR の品質問題カテゴリ。
PSR 顧客	自動	関連 PSR に関する顧客。
PSR サプライヤ	自動	関連 PSR に関するサプライヤ。

フィールド	設定方法	内容
PSR 重大度	自動	関連 PSR の重大度。Agile PLM 管理者が重大度を定義します。
PSR 対応策	自動	PSR が解決された方法。
PSR 予定解決日	自動	関連 PSR の予定解決日。
PSR 品質分析者	自動	関連 PSR に割り当てられた品質分析者。 デフォルトの品質分析者に通知するようにワークフローが定義されている場合、このフィールドの部署のユーザーは PSR に関する通知を受信します。
PSR ワークフロー	自動	品質追跡プロセスに従ってこの PSR を処理するために使用されるワークフローの名前。
PSR ステータス	自動	関連 PSR のワークフロー・ステータス。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドは「未割当」です。
PSR 作成者	作成時に自動入力	デフォルトの PSR 作成者。
PSR 作成日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR を作成した日付。
PSR 提出日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR を提出した日付。
PSR リリース日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR をリリースした日付。
PSR 最終完成日	通常は作成時に自動入力	関連 PSR が完了した日付。
集約 PSR 番号	PSR が「関連 PSR」タブに追加されると自動入力	親 PSR 番号に基づき自動入力されるフィールド。

注意 「イベント」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順  または降順  を示します。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

関連 PSR を親 PSR に追加する

Java クライアントで関連 PSR を親 PSR に追加するには

1. PSR を開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2.  をクリックし、次のオプションの 1 つを選択します。
 - 「作成」ボタン  を使用すると、オブジェクトを作成できます。
 - 「検索」ボタン  を使用すると、既存のオブジェクトを検索できます。

オブジェクトを作成するには

- 「作成」ボタンをクリックします。「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「タイプ」リストからタイプを選択します。
 - オブジェクト番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックして新しい番号を生成します。
 - 「OK」をクリックします。
- オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

1つ以上の既存のオブジェクトを検索するには

- 「関連オブジェクトの追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。
- 簡易検索を実行する場合は、値を入力して「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、ブックマークを付けたオブジェクトの選択、または「最近訪れたところ」フォルダ(ショートカット)からの選択も行えます。
- 検索結果からオブジェクトを選択します。右矢印を使用するか、オブジェクトをダブルクリックして、「関連するオブジェクトの選択」列に移動します。
- 異なるオブジェクト・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「追加後、行を編集」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
- 「OK」をクリックします。

オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

注意 リストから選択せずに「追加」アイコンをクリックすると、「関連 PSR の追加」(検索)ダイアログ・ボックスが表示されます。

Webクライアントで関連PSRを親PSRに追加するには

- PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
- 「関連 PSR」テーブルで、「追加」をクリックします。
 - 検索パレットを起動して既存の PSR を検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。
 - 新しい PSR を作成して「関連 PSR」タブに追加するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
 - 「最近訪れたところ」フォルダから PSR を選択し、「関連 PSR」テーブルにドラッグ・アンド・ドロップします。
 - PSR に表示されている PSR をコピーし、別の PSR の「関連 PSR」テーブルに貼り付けます。

既存のオブジェクトを検索するには

- パレットを起動して既存の PSR を検索するには、「検索して追加」ボタン  をクリックします。検索フィールドを呼び出すには、[Ctrl]+[I]キーを使用します。
- 値を入力するか「*」を入力して、「簡易検索の実行」ボタン  をクリックします。
- 表示されるリストから PSR を選択します。PSR を「関連 PSR」テーブルに移動するには、次のいずれかを実行します。
 - オブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。
 - オブジェクトをダブルクリックします。
 - [Enter]を押します。
- 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

新しいオブジェクトを作成するには

- 新しい PSR を作成するには、「作成して追加」ボタン  をクリックします。
- 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「タイプ」フィールドで、リストからオブジェクトを選択します。

3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックします。
4. 「説明」フィールドに詳細を入力します。
5. 「追加」をクリックしてオブジェクトをテーブルに追加するか、「キャンセル」をクリックして「関連 PSR」テーブルに戻ります。
オブジェクトが「関連 PSR」テーブルに表示されます。

「関連 PSR」タブのアイテムの編集

「関連 PSR」タブのフィールドの情報を編集して、情報を追加したり、既存の値を変更できます。

Javaクライアントで関連PSRを編集するには

1. PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2. 「関連 PSR」テーブルで、編集する行を選択します。
3. 「編集」ボタン  をクリックして、行を編集します。
4. 編集するセルをダブルクリックします。
5. リストを使用して値を選択し、該当するフィールドを編集します。
6. 「OK」をクリックします。

Webクライアントで関連PSRを編集するには

1. PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2. 「関連 PSR」テーブルで、編集する行を選択します。
3. 編集するセルをダブルクリックします。

注意 セルが開かない場合、そのフィールドが編集不可であるというメッセージが表示されます。

4. リストを使用して値を選択し、該当するフィールドを編集します。
5. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 「PSR イベント」ドロップダウン・リストに、親 PSR のステータスが表示されます。親および関連 PSR のステータスを選択し、親 PSR が「PSR イベント」フィールドで指定されたステータスに達したときに、関連 PSR が「PSR 結果」フィールドのステータスに移行するよう設定できます。

注意 たとえば、「PSR イベント」フィールドを「終了」に設定し、「PSR 結果」フィールドを「終了」に設定すると、親 PSR が「終了」ステータスに移行した際に、関連（子）PSR も自動的に「終了」ステータスへと移行します。

関連 PSR を削除する

Javaクライアントで関連PSRを削除するには

1. PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2. 削除する PSR を選択します。
3. 「削除」ボタン  をクリックします。
ダイアログが表示され、確認後に関連 PSR を削除するように促されます。

Webクライアントで関連PSRを削除するには

1. PSRを開き、「関連 PSR」タブをクリックします。
2. 削除する PSR を選択します。
3. 「削除」をクリックします。
テーブルから削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。

注意 親 PSR の番号が、PSR の「カバー・ページ」の「集約 PSR 番号」フィールドに表示されなくなります。

「関係」タブ

「関係」タブを使用すると、現在の PSR または QCR とルーティング可能なオブジェクトおよびライフサイクル・オブジェクトの間に関係を作成できます。この関係は、両方のオブジェクトの「関係」タブに表示されます。オブジェクト間にルールを指定できます (オプション)。

Agile オブジェクトの「関係」タブには、オブジェクト間のルールを指定するためのオプションがあります。PSR/QCR にカーソルを合せると、「クイック・ビュー」情報リンクが表示されます。「クイック・ビュー」ダイアログ・ボックスをクリックすると、オブジェクトにナビゲートしなくとも実際の情報が表示されます。メッセージ・バーに「ルールの追加」リンクが表示され、(ルールを指定した場合は) ルールが Web クライアントに表示されます。ルールを指定すると、「ルールの編集」および「ルールの削除」リンクがメッセージ・バーに表示されます。特定のオブジェクトには、関連するビューを含むテーブル、およびユーザーが実行できるアクションが表示されます。

関係 - テーブル

「関係」テーブルにはすべての Agile オブジェクトが表示されます。 「関係」テーブル:

存在: その機能がクラスとサブクラスに存在することを示します。

「関係」 (ルールあり) 列

はい: その機能をクラスおよびサブクラスに追加できることを示します。

いいえ: その機能をサポートしていないことを示します。

「イベント」 / 「結果」 列

ワークフロー: そのオブジェクトのワークフローのステータスに基づいて、クラス・オブジェクトのイベント/結果を示します。

ライフサイクル: そのオブジェクトのライフサイクルのステータスに基づいて、クラス・オブジェクトのイベント/結果を示します。

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント / 結果	関係 (ルールあり)	参照・関係 (ルールなし)	変更管理に基づく ライフサイクル
変更	変更指示	ワークフロー	存在	存在	NA
	変更要求	ワークフロー	存在	存在	NA
	期限付き変更指示	ワークフロー	存在	存在	NA
	製造元依頼	ワークフロー	存在	存在	NA
	価格変更	ワークフロー	存在	存在	NA
	拠点毎変更	ワークフロー	存在	存在	NA

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント / 結果	関係 (ルールあり)	参照・関係 (ルールなし)	変更管理に基づく ライフサイクル
	出荷停止	ワークフロー	存在	存在	NA
顧客	顧客	ライフサイクル	はい	存在	いいえ
デクラレーション	均質材の デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-1 デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	IPC 1752-2 デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	JGPSSI デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	部品の デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	サブスタンスの デクラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	適合のサプライヤ・デ クラレーション	ワークフロー	存在	存在	NA
	ファイル・フォルダ	ライフサイクル	はい	存在	いいえ
	アイテム	ドキュメント	ライフサイクル	はい	NA
		部品	ライフサイクル	はい	NA
	製造元部品	製造元部品	ライフサイクル	はい	NA
製造元	製造元	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
パッケージ	パッケージ	ワークフロー	はい	はい	
部品グループ	部品グループ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
価格	公表プロセス	ライフサイクル	はい	はい	はい
	見積履歴	ライフサイクル	はい	存在	はい

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント / 結果	関係 (ルールあり)	参照・関係 (ルールなし)	変更管理に基づく ライフサイクル
PSR	不具合レポート	ワークフロー	存在	存在	NA
	問題レポート	ワークフロー	存在	存在	NA
プログラム	アクティビティ	ワークフロー	存在	存在	NA
	ゲート	ワークフロー	存在	存在	NA
QCR	検証	ワークフロー	存在	存在	NA
	是正・予防処置	ワークフロー	存在	存在	NA
見積依頼	見積依頼	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
見積依頼回答	見積依頼回答	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
拠点	拠点	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
ソーシング・プロジェクト	ソーシング・プロジェクト	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
含有基準	含有基準	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
サブスタンス	マテリアル	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブパート	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
	サブスタンス	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
サプライヤ	サプライヤ	ライフサイクル	はい	はい	いいえ
転送依頼	自動転送指示	ワークフロー	はい	はい	NA
	コンテンツ転送	ワークフロー	はい	はい	NA
ユーザー・グループ	ユーザー・グループ	なし	いいえ	はい	NA
ユーザー	ユーザー	ステータス属性	いいえ	はい	NA
アクション・アイテム	アクション・アイテム	ステータス属性	いいえ	いいえ	NA

Agile 基本 クラス	Agile クラス	イベント / 結果	関係 ルールあり	参照・関係 (ルールなし)	変更管理に基づく ライフサイクル
ディスカッション	ディスカッション	なし	いいえ	はい	NA
レポート	カスタム・レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	外部レポート	なし	いいえ	いいえ	NA
	標準レポート	なし	いいえ	いいえ	NA

PQMにおける関係

ここでは、PQM ソリューションで使用される関係に関する追加情報を示します。

重要 関係がPQMオブジェクト間で作成される場合、その関係に対して空白のルールが作成されます。PQM オブジェクトが相互に及ぼす影響を定義するには、空白のルールを編集する必要があります。

- QCR が PSR に影響する、つまり QCR と PSR に関連性があり、関係ルールが次のフォーマットを使用している場合

<QCR ソース・オブジェクト>が<イベント>の場合、<PSR ターゲット・オブジェクト>を<結果>に設定

PSR の「対象アイテム」タブのすべてのアイテムが、QCR の「PSR アイテム」テーブルに表示されます。PSR を使用して複数の PSR を集約した場合は、関連 PSR の対象アイテムが表示されます。
- この QCR が PSR の影響を受ける、つまり QCR と PSR に関連性があり、ルールが次のフォーマットを使用している場合

<PSR ソース・オブジェクト>が<イベント>の場合、<QCR ターゲット・オブジェクト>を<結果>に設定

PSR の「対象アイテム」タブのすべてのアイテム、および関連する PSR の対象アイテムは、QCR の「PSR アイテム」テーブルに表示されません。

参照オブジェクトとは

Agile PLM では、「関係」タブのテーブルで、Agile PLM の他のオブジェクトへの参照を追加できます。Agile PLM 932 では、参照オブジェクト機能で、ユーザーが外部アプリケーションのオブジェクトを検索し、「関係」タブの参照としてオブジェクトを追加できるようになりました。

「関係」タブで、エンド・ユーザーは次のことを行えます。

- 外部アプリケーションのオブジェクトを検索し、そのオブジェクトへの参照を Agile PLM の「関係」テーブルに追加できます。
- 外部アプリケーションで新規オブジェクトを作成し、そのオブジェクトへの参照を Agile PLM の「関係」テーブルに追加できます。
- Agile PLM の「関係」テーブルに対して、参照オブジェクトを検索、追加および削除できます。

関係の属性

オブジェクトを成果物としてプロジェクトに追加する場合、そのオブジェクトの「関係」タブにもプロジェクトを追加します。これら2つのオブジェクト間に関係ルールを定義でき、ルールを両方のオブジェクトから表示できます。

- オブジェクトを関係として2番目のオブジェクトに追加すると、逆転関係が作成され、最初のオブジェクトの「関係」タブの下に2番目のオブジェクトが表示されます。
- 2つのオブジェクト間にデフォルトの関係ルールはありません。
- リビジョンのあるオブジェクトに関係を追加する場合
 - ルールが保留中の場合にのみ、部品またはドキュメントの名前フィールドにオブジェクト名または番号が表示されます。オブジェクト名または番号をクリックします。編集可能フィールドでテキストを入力するか、リストを使用します。リビジョンに最新のリビジョンが表示されます。
 - ルールに適合する場合 (イベントのライフサイクルが発生した場合)、オブジェクトのリビジョンが名前フィールドに表示されます。
 - たとえば、きっかけとなるイベントが、ライフサイクルが製造に移行する時点の場合、製造フェーズで発生した最初のリビジョンがここに表示されます。
 - 名前フィールドの値はハイパーリンクが設定され、リビジョンのカバー・ページにリンクされます。
 - Java クライアントでルールを追加、編集または削除するには、それぞれ「ルールの追加」、「ルールの編集」または「ルールの削除」ボタンをクリックします。
 - Web クライアントでは、メッセージ・バーにルールが表示されます。ルールの編集およびルールの削除リンクを使用して、ルールを編集および削除することもできます。
 - 指定された条件を満たす場合、フォルダ・バージョンに関連する添付ファイルが表示されます。

詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「関係」を参照してください。

「関係」タブのツール

「関係」タブには次のボタンがあります。

- **追加:** オブジェクトを追加できます。
- **削除:** オブジェクトを削除できます。
- **ルールの編集:** ルールを追加または編集できます。
- **詳細:** ユーザーが実行できるその他のアクション (コピー、貼付け、下方へコピー、上方へコピー) が表示されます。

「関係」タブのページには、「表示」および「パーソナライズ」ボタンがあります。「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。ビューの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「Agile Web クライアントの操作」を参照してください。

39ページの「[「関係」テーブル](#)」も参照してください。

「関係」タブ・テーブル

「関係」テーブルには、デフォルトで次の列が含まれています。

フィールド	設定方法	内容
適合した条件	自動。(追加されたオブジェクトの関係ルールが満たされた場合)	追加されたオブジェクトが、指定ステータスを取得した場合に示されます。条件が満たされると、Web クライアントの場合  および Java クライアントの場合  のシンボルが表示されます。
タイプ(画像)	自動	追加するオブジェクトのタイプ(画像)。

フィールド	設定方法	内容
名前	自動	オブジェクトの名前。
説明	自動	追加するオブジェクトの説明と番号。(PR00054)など。
現在のステータス	オブジェクトの追加時に自動入力	関連オブジェクトの現在のステータス。
ルール	ルールの追加時に自動入力	指定したルールが表示されます。 注意 ルールを指定できるのは、ワークフローを PSR に割り当てる場合のみです。
タイプ	自動	追加されたオブジェクトのタイプ (問題レポートなど)。

注意 「名前」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順  または降順  を示します。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、カスタマイズしたビューを作成できます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義していくつかのビューを作成して保存します。使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

PSR の「関係」タブへのオブジェクトの追加

すべての Agile オブジェクトを関係テーブルに追加できます。Agile オブジェクト間の関係を定義するために、管理者は適切な権限を設定する必要があります。

Javaクライアントで関係テーブルにオブジェクトを追加するには

- PSR を開き、「関係」タブをクリックします。
- 「関係」テーブルの「追加」ボタン  をクリックします。
 - 「作成」ボタン  を使用すると、新しいオブジェクトを作成できます。
 - 「検索」ボタン  を使用すると、1つ以上の既存のオブジェクトを検索できます。

オブジェクトを作成するには

- 「作成」ボタンをクリックします。「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「タイプ」リストからサブクラスを選択します。
 - 番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックします。
 - 「OK」をクリックします。
- オブジェクトが「関係」タブに表示されます。

既存のオブジェクトを検索するには

- 「関係の追加」ダイアログ・ボックスで、検索方法を選択します。
- 簡易検索を実行する場合は、検索する値を入力し、「検索」をクリックします。「詳細検索」の定義、「保存された検索」の実行、ブックマークを付けたオブジェクトの選択、または「最近訪れたところ」フォルダ (ショートカット) からの選択も行えます。
- 検索結果からアイテムを選択します。検索結果は、PSR、QCR、変更のいずれかです。右矢印を使用するか、選択したオブジェクトをダブルクリックして、「選択した関連オブジェクト」列に移動します。
- 異なるアイテム・リビジョンを選択したり、他のフィールドを編集する場合は、「追加後、行を編集」チェック・ボックスが選択されていることを確認してください。
- 「OK」をクリックします。

選択したオブジェクトが「関係」テーブルに表示されます。

Webクライアントで関係テーブルにオブジェクトを追加するには

1. オブジェクトの「関係」タブにナビゲートします。
2. 「追加」メニュー・ボタンをクリックし、次のオプションの1つを選択します。
 - 「検索」を選択してオブジェクトを検索します。検索パレットを開きます。簡易検索を実行して、目的のオブジェクトを検索します。ダブルクリックしてオブジェクトを追加します。[Esc]を押してパレットを閉じます。
 - 「作成」を選択して新しいオブジェクトを作成します。オブジェクト・タイプを選択し、該当するフィールドに入力した後、「追加」をクリックします。新たに作成されたオブジェクトがテーブルに追加されます。
 - 「参照オブジェクト」を選択して、外部アプリケーションのオブジェクトを検索し、関係テーブルに参照として追加します。
 - a. 開いた検索パレットでオブジェクトを検索し、オブジェクトの名前をクリックして、対応するアプリケーションで表示します。
 - b. 「OK」をクリックして、参照オブジェクトを追加します。
3. ドラッグ・アンド・ドロップによる方法
 - 左側のナビゲーション・ウィンドウでオブジェクトを選択します。オブジェクトをテーブルにドラッグしてドロップします。「私のブックマーク」、「最近訪れたところ」リストおよび「ナビゲータ」ドローワからドラッグ・アンド・ドロップできます。
4. コピー・アンド・ペーストします
 - テーブル（「検索結果」テーブル、「BOM」テーブル、「使用箇所」テーブルなど）から1つ以上のオブジェクトをコピーします。「詳細」>「コピー」または[Ctrl]+[C]を使用して、行をコピーします。
 - 関係を追加するオブジェクトを開きます。「関係」タブをクリックして表示します。「詳細」>「貼付け」または[Ctrl]+[V]を使用して、行を貼り付けます。

問題レポートまたは不具合レポートを他の Agile オブジェクトの「関係」タブに追加することもできます。

「関係」テーブルの編集

「関係」テーブルを編集して、情報を追加したり、既存の情報を変更できます。

Javaクライアントで関係テーブルを編集するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 編集する行を選択します。
3. 「関係の編集」ボタンをクリックします。
4. 該当するフィールドを変更します。
5. 「OK」をクリックします。

変更された値がテーブルに表示されます。

Webクライアントで関係テーブルを編集するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 編集するフィールドをダブルクリックします。
3. 該当するフィールドを変更します。
4. 「保存」をクリックします。

変更された値がテーブルに表示されます。

関係の削除

不適切とわかった場合、「関係」タブのオブジェクトを削除できます。オブジェクトの「関係」タブから関係を削除すると、関連するオブジェクトの「関係」タブからも削除されます。

Javaクライアントで関係を削除するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 削除するオブジェクト行を選択します。
3. 「関係の削除」ボタン  をクリックします。

オブジェクトが「関係」テーブルに表示されなくなります。

Webクライアントで関係を削除するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 削除するオブジェクト行を選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。

削除された行数がメッセージ・バーに表示されます。オブジェクトが「関係」テーブルに表示されなくなります。

関係ルール

関係ルールでは、オブジェクトに対して定義されるワークフローが別のオブジェクトのワークフロー・ステータスに及ぼす影響が指定されます。たとえば、PR0048 が提出されると、PR0049 が「レビュー」に設定されます。

- **ライフサイクル・オブジェクトは関係のソースにのみなることができ、関係のターゲットにはできません。**
ライフサイクル・オブジェクトは関係のソースにのみなることができ、関係のターゲットにはできません。ライフサイクル・オブジェクトからワークフロー・オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクルのステータスがワークフロー・オブジェクトのステータスに影響します。
たとえば、製品サービス依頼（ワークフロー・オブジェクト）PR00061 と（ワークフロー・オブジェクト）設計変更指示の間に関係ルールが定義されているとします。このルールでは、PR00061 がリリース済の場合に、設計変更指示を「リリース済」に設定することが定義されています。元オブジェクト（PR00061）と先オブジェクト（設計変更指示）の関係をルールで決定し、ルールが影響を与えるのはワークフロー・オブジェクトのみになるようにします。
ワークフロー・オブジェクトからライフサイクル・オブジェクトに関係を追加すると、ライフサイクル・オブジェクトのステータスはワークフロー・オブジェクトのステータスに影響し、逆方向には影響しません。
- **ワークフロー・オブジェクトから関係を追加すると、他のワークフロー・オブジェクトに両方向で関係ルールを定義できます。**
たとえば、QCR QCR12345 と PSR PR55768 の2つのワークフロー・オブジェクト間の関係では、「場合」ドロップダウンに QCR12345 と PR55768 の2つのオブジェクトが表示され、「設定」ドロップダウンにも同じ2つのオブジェクトが表示されます。「場合」と「設定」の両方で同じオブジェクトは選択できません。「場合」リストからオブジェクトを選択すると、「設定」フィールドは別のオブジェクトでアップグレードされます。
関係は両方のオブジェクトから表示可能で、表示されるルールは同じにする必要があります。
- **2つのライフサイクル・オブジェクト間に関係ルールは定義できません。**
関係ルールはライフサイクル・オブジェクトとワークフロー・オブジェクト間にのみ定義可能で、2つのライフサイクル・オブジェクト間には定義できません。

関係ルールの追加

「関係」タブには、オブジェクト間のルールを関連付けるためのオプションがあります。特定のオブジェクトには、関連するビューを含むテーブル、および関連オブジェクトで実行可能なアクションが表示されます。

たとえば、「関係」タブにアイテムを追加すると、テーブルには「対象アイテム」テーブルと「アイテム番号」および「アイテムの説明」フィールドが表示されます。番号フィールドにはハイパーリンクが設定されます。

このオブジェクトの詳細にアクセスするには、「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。この情報リンクは、対応するオブジェクトにカーソルを合せたときに表示されます。オブジェクトの詳細を表示し、実際のオブジェクトにナビゲートしなくともいくつかのアクションを実行できます。

「クイック・ビュー」ダイアログ・ボックスのメッセージ・バーに「ルールの追加」リンクが表示され、ルールを指定できます。ルールを指定すると、「ルールの編集」および「ルールの削除」リンクも表示されます。

Javaクライアントで関係ルールを追加するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. ルールを追加する PSRを選択します。
3. 「ルールの追加」ボタン  をクリックします。
4. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスが開きます。ルールを指定します。

例:

PR0002が「レビュー」の場合

PR123304を「提出済」に設定します。

5. 「OK」をクリックします。

対応するオブジェクトの「関係」テーブルにルールが表示されます。

Webクライアントで関係ルールを追加するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 「関係」テーブルで、「ルールの編集」ボタンを使用してルールを追加するか、PSRにカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。
3. ダイアログ・ボックスが表示されます。メッセージ・バーに「追加」ルール・リンクまたはルール（指定されている場合）が表示されます。
4. 「ルールの追加」リンクをクリックします。
5. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスが開きます。ルールを指定します。

例:

問題レポート PR000142が「レビュー」の場合

問題レポート PR00144を「提出済」に設定します。

6. 「保存」をクリックします。

ルールがメッセージ・バーに表示されます。

7. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。

または、「ルールの編集」ボタンを使用してルールを追加することもできます。

対応するオブジェクトの「関係」テーブルにルールが表示されます。

関係ルールの編集

「関係」テーブルでオブジェクトのルールを変更できます。「関係」テーブルの「ルールの編集」ボタン、または「クイック・ビュー」ダイアログ・メッセージ・バーに表示される「ルールの編集」を使用します。

Javaクライアントで関係ルールを編集するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 編集する「関係」テーブルの行を選択します。
3. 「ルールの編集」ボタン  をクリックします。
4. 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
5. 「OK」をクリックします。

変更したルールが「関係」テーブルに表示されます。

Webクライアントで関係ルールを編集するには

1. PSRを開き、「関係」タブをクリックします。
2. 次のいずれかを実行できます。
「ルールの編集」ボタンをクリックします。

- 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
 - 「保存」をクリックして変更内容を保存します。
- PSR にカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。
- 「ルールの編集」リンクをクリックします。
 - 「関係ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。
 - 「保存」をクリックして変更内容を保存します。
3. 「閉じる」ボタン  をクリックしてパレットを閉じます。
- 変更したルールが「関係」テーブルに表示されます。

関係ルールの削除

該当しない場合、関係に関連付けられたルールを削除できます。Web クライアントで、ルールを指定すると、「関係」ダイアログ・ボックスのメッセージ・バーに「ルールの削除」リンクが表示されます。

Java クライアントで関係ルールを削除するには

- PSR を開き、「関係」タブをクリックします。
- ルールを含む「関係」テーブルの行を選択します。
- 「ルールの削除」ボタン  をクリックします。ルールの削除を確認するダイアログ・ボックスが表示されます。

ルールが「ルール」列に表示されなくなります。

Web クライアントで関係ルールを削除するには

- PSR を開き、「関係」タブをクリックします。
- PSR にカーソルを合せたときに表示される「クイック・ビュー」情報リンクをクリックします。
- 開いたダイアログ・ボックスで、「ルールの削除」リンクをクリックします。
または、「関係」テーブルの「ルールの編集」ボタンを使用して、ルールを削除します。

ルールが「ルール」列に表示されなくなります。

フィルタ

フィルタを使用すると、PSR の「関係」タブで、含まれるルールによってオブジェクトを絞り込むことができます。フィルタ・オプションを使用して、設定する属性で関係をフィルタリングできます。Java クライアントの「関係」タブには「フィルタ」ボタンがあります。Web クライアントでは、「パーソナライズ」メニューを使用して関係をフィルタリングします。

Java クライアントでは、デフォルトの「表示」オプションは 4 つの値で構成されています。

すべての関係: このフィルタでは、テーブルのすべての関係オブジェクトをフィルタリングできます。

完了: このフィルタでは、ルール条件を満たすオブジェクトすべてをフィルタリングできます。

保留中: このフィルタでは、ルール条件を満たさないオブジェクトをフィルタリングできます。

ルールが指定されていません: このフィルタでは、ルールが指定されていないオブジェクトをフィルタリングできます。

「フィルタの表示」ボタン  をクリックします。「関係」テーブルの上に追加行が表示されます。次の属性を使用してフィルタリングできます。

- 適合した条件:** 指定された条件に適合した関係をフィルタリングします。
- 名前:** 名前によって関係をフィルタリングします。
- 説明:** 説明によって関係をフィルタリングします。
- ルール:** ルールによって関係をフィルタリングします。

- **タイプ:** タイプによって関係をフィルタリングします。

Web クライアントの右上にある「表示」メニューでは、「パーソナライズ」メニューを使用してビューを作成できます。「パーソナライズ」メニューを使用すると、関係をフィルタリングできます。「テーブルのパーソナライズ」パレットのオプションに基づいてフィルタ条件を定義します。

次に示す追加の属性を使用すると、関係をさらにフィルタリングできます。

- **適合した条件:** 指定された条件に適合した関係をフィルタリングします。
- **名前:** 名前によって関係をフィルタリングします。
- **説明:** 説明によって関係をフィルタリングします。
- **現在のステータス:** 現在のステータスを使用してフィルタリングします。
- **ルール:** ルールによって関係をフィルタリングします。
- **タイプ:** タイプによって関係をフィルタリングします。

「表示」および「パーソナライズ」メニューの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

PSR の「ワークフロー」タブ

Agile PLM ワークフローとは、品質管理プロセス内でルーティング可能なオブジェクトが従うステータスの流れです。「ワークフロー」タブには、PSR がそのライフサイクル中にルーティングされるステータスが表示されます。**保留中**ステータスから開始して、**クローズ済**ステータスで終わります。どのフェーズでも、PSR をキャンセルまたは保留中にできます。適切な権限および役割があるユーザーが PSR を提出してレビュー用にルーティングします。通知を受けたレビューは PSR をレビューし、必要な変更を加えて承認用にルーティングします。レビューには、PSR を承認または却下する承認者、変更を確認する確認者、コメントをするオブザーバが含まれます。

機能チームは、変更を通知するように選択した承認者、確認者およびオブザーバで構成されます。「レビューの追加」/「レビューの削除」ボタンを使用すると、承認者、確認者およびオブザーバを追加または削除できます。

「ワークフロー」タブのページには 2 つのセクションが表示されます。

1. **要約:** 現在のステータスのサインオフ情報が表示されます。このセクションは、レビュー・ステータスまたはリリース・ステータスに対して表示されます。
2. **ワークフロー:** 現在のワークフローのチャートが表示されます。このセクションは、ワークフローに割り当てるすべての変更に対して表示されます。

色はワークフローのステータスを表します。

- 緑: 以前に実行したステータス
- オレンジ: 現在のステータス
- 青: 将来のステータス

「サインオフ履歴」テーブルには、PSR の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。PSR のルートの例を次に示します。

- 予備調査のために社内でルート
- 是正処置が必要かどうかの確認を依頼するために管理者にルート
- 詳細情報の提供を担当するサポート・コール・センター/フィールド・サービス担当者にルート
- 実施した修正の最終承認を求めて顧客にルート
- 問題への対応を求めてサプライヤにルートなど

「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

PSR で使用できるワークフロー・ステータスの図を次に示します。問題レポートのワークフローは、不具合レ

ポートのワークフローに似ています。



詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

PSR を提出、ルートする

プロセスを表すクラスからルーティング可能なオブジェクトを作成できます。たとえば、変更管理プロセス内の変更、製品サービス依頼などです。ワークフローを経由して承認を求めるために、Agile PLM ユーザーにオブジェクトをルートします。オブジェクトをルートするには、PSR の「カバー・ページ」にある「次のステータス」ボタンを使用します。ルート管理者はオブジェクトのルートおよび承認プロセスを監視し、ルーティング可能なオブジェクトを評価して割り当て、電子メール通知を受信します。品質分析者は、PSR のデフォルトのルート管理者です。

詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

カバー・ページの「次のステータス」ボタンでは、ドロップダウン・メニューに表示される許容順序の任意のステータスに、送信可能なオブジェクトを切り替えることができます。

- PSR の場合、「中断」および「キャンセル」が追加のステータスとして表示されます。
ビジネス・オブジェクト (PSR) の一般的なルートを次に示します。
「未割当」>「保留中」>「提出済」>「レビュー」>「リリース済」>「クローズ済」。
「中断」および「キャンセル」ステータスがワークフロー・チャートまたは「次のステータス」ドロップダウン・メニューに示されるのは、PSR が「提出済」ステータスに到達した後のみです。
- 一意の名前の複数の「中断」ステータスを設定できます。名前は「中断」ステータスの目的を示しています。
- 「中断」または「キャンセル」ステータスは、「手動による次の有効なステータス」として使用可能な場合にのみ表示されます。

詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「複数の中断およびキャンセル・ステータス」を参照してください。

承認マトリックス

承認マトリックス機能では、各自が作業で実行するジョブ機能に従って、承認者、オブザーバおよび確認者を送信可能オブジェクト・ワークフロー・アクションに自動的に割り当てることができます。

この機能を設定して有効にする方法の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「承認マトリックス」を参照してください。

機能チーム: 特定のジョブ機能を実行する際にチームとして作業するユーザーのグループやユーザー・グループ。

「機能チーム」属性は、送信可能なオブジェクト (PSR および QCR) のカバー・ページに表示されます。これらのオブジェクトがワークフローで送信される際に通知される承認者、確認者、オブザーバおよびユーザーを決定する際にオブジェクトの機能チームが助けになります。

ジョブ機能: 作業でユーザーが実行するジョブの役割。例: 製品管理者、製品マーケティング・マネージャ、開発リード、開発マネージャなど。

PSR の「添付ファイル」タブ

添付ファイルには、フォーム・ファイル、ドキュメント、図面、画像内の補助的なデータが含まれています。すべての Agile PLM オブジェクトの「添付ファイル」タブからファイルと URL を参照できます。添付ファイルと URL を追跡して検索し、自動的に作成されるファイル・フォルダというオブジェクト（「ファイル・フォルダ」クラスからの参照情報のオブジェクト）にそのファイルを追加することもできます。

実際の添付ファイルは、Agile ファイル・マネージャ（ファイル格納庫と呼ばれます）に保存されます。添付ファイルには、オブジェクトやプロセスを説明する情報が含まれます。たとえば、部品やサブアセンブリを説明する含有基準であれば、次のような添付ファイルを持つ可能性があります。

- 表示可能なフォーマットの図面ファイル（CAD 図面など）またはスキャンした画像ファイル
- ドキュメント、表示不可能なファイル、圧縮（ZIP）ファイルなど

「添付ファイル」タブのアクションを使用すると、添付ファイルのコピーの追加、削除、開く、表示または取得を実行できます。「表示」ドロップダウン・ボタンでは、「比較」、「検索で比較」および「オーバーレイ」を表示できます。また、添付ファイルのチェックインとチェックアウト、さらにチェックアウトのキャンセルも可能です。ただし、実際にはファイル・フォルダ・オブジェクトのチェックインとチェックアウトを行うことになります。「詳細」ドロップダウン・ボタンのアクションを使用すると、次のことを実行できます。

- ショートカットの取得
- バージョンの表示
- 印刷
- コピー
- 貼付け

「上方へコピー」および「下方へコピー」オプションでは、選択範囲の上方または下方のセルにセルの値をコピーできます。「上方へコピー」オプションでは、選択したセルに最後の値がコピーされ、「下方へコピー」オプションでは、選択したすべてのセルに最初のセルの値がコピーされます。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義することでいくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

品質変更要求を使用する

この章のトピック

▪ QCR を作成する	49
▪ QCR の「カバー・ページ」タブ	52
▪ QCR の「対象アイテム」タブ	54
▪ QCR の「関係」タブ	55
▪ QCR の「ワークフロー」タブ	56
▪ QCR の「添付ファイル」タブ	57

Product Quality Management では、品質変更要求（QCR）により検証や是正・予防処置が作成および管理されます。QCR を使用すると、問題が発生した場合にルーティング可能な品質記録に集約して不良の原因を分析し、標準の CAPA の手順を使用して問題を解決できます。

QCR を作成する

適切な権限がある場合、QCR オブジェクトは、他の Agile PLM オブジェクトと同様に作成できます。品質管理者の役割では、QCR に関するすべての機能を実行できます。役割および権限の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

「新規オブジェクト」ボタンまたは「名前を付けて保存」機能を使用して QCR を作成できます。

Java クライアントで QCR を作成するには

1. Java クライアントを起動します。
2. 「新規オブジェクト」ボタン  をクリックします。 「新規オブジェクト」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 「タイプ」リストで値を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR オブジェクトを作成し、QCR（検証または是正・予防処置（CAPA））が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。

Web クライアントで QCR を作成するには

1. Agile Web クライアントを起動します。
2. メイン・ツールバーから「新規作成」ドロップダウン・ボタンをクリックします。「品質変更要求」>「検証」または「是正・予防処置」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「タイプ」フィールドで、リストから値を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「保存」をクリックします。

Agile Web クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。

QCR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスが QCR に表示されます。

QCRにワークフローを割り当てるには

1. QCRを開き、「編集」ボタンをクリックします。
2. 「ワークフロー」リストからワークフローを選択します。詳細は、「QCRの「ワークフロー」タブ」を参照してください。
3. 「保存」をクリックします。

保存された QCR のステータスがページの右隅に表示されます。たとえば、割り当てるステータスは「準備完了」、「提出済」、「レビュー」または「リリース済」です。

注意 検証日前に、作成者および品質管理者に対して検証の催促が送信されます。「変更」権限がある場合、ファイルで検証催促日を設定できます。

「名前を付けて保存」を使用した QCR の作成

「名前を付けて保存」機能を使用して QCR を作成できます。「名前を付けて保存」機能では、既存のオブジェクトのフィールドから新しいオブジェクトの同じフィールドにデータがコピーされるため、値が異なる同様のオブジェクトが作成されます。

クラスやサブクラスが異なるオブジェクトの作成に「名前を付けて保存」機能を使用しないでください。このようなオブジェクトには、同じタブ/フィールドが含まれていないため、データを失う可能性があります。

警告 既存のオブジェクトのフィールドまたはリストの値が新規オブジェクトで使用できない場合、そのフィールドまたはリストの値は新規オブジェクトにコピーされません。

Javaクライアントで「名前を付けて保存」機能を使用してQCRを作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。
2. 右クリックし、「名前を付けて保存」を選択します。または、メイン・ツールバーから「ファイル」を選択し、「名前を付けて保存」を選択します。「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「タイプ」リストで、「検証」または「是正・予防処置」を選択します。
4. 「QCR 番号」のフィールドで、表示された番号を受け入れます。番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成することもできます。
5. 「OK」をクリックします。
6. Agile Java クライアントが QCR (検証または是正・予防処置 (CAPA)) を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」タブとともに表示されます。該当するフィールドを変更します。
7. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

Webクライアントで「名前を付けて保存」機能を使用してQCRを作成するには

1. 新規 QCR の基本となる QCR を開きます。
2. 「アクション」ドロップダウン・メニューをクリックします。
3. 「名前を付けて保存」を選択します。
4. 表示される「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで、「タイプ」リストから「検証」または「是正・予防処置」を選択します。
5. 「QCR 番号」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
6. 「保存」をクリックします。
7. QCR が編集モードで「カバー・ページ」を表示して開きます。該当するフィールドを変更します。
8. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。
9. QCR に「カバー・ページ」が表示されます。

注意 Agile PLM 管理者によって適切なプリファレンスが設定されている場合、オプションの「ページ 2」と「ページ 3」セクションのフィールドが新規オブジェクトにコピーされます。使用中の Agile PLM システムにおける「ページ 2」と「ページ 3」フィールドの動作については、Agile PLM 管理者にお問い合わせください。「ページ 3」のデータは特定のサブクラスにのみ適用されるため、「名前を付けて保存」機能を使用してサブクラスの異なる新規オブジェクトを作成した場合、「ページ 3」のデータは新規オブジェクトにコピーされません。

「ページ 2」と「ページ 3」フィールドの「名前を付けて保存」設定を有効にするには、Java クライアントの「管理」>「サーバー設定」>「プリファレンス」の「異なるクラスのページ 2 として保存」、「異なるクラスのページ 3 として保存」および「異なるサブクラスのページ 3 として保存」を参照してください。

アイテムからの QCR の作成

PSR または個別アイテムから QCR を作成できます。問題を終了に導くためにアイテムから QCR を作成する場合、次の操作を行います。

- QCR の「対象アイテム」テーブルにアイテムを追加
- アイテムの「品質」タブの「QCR」テーブルに QCR を追加

QCR を承認した後、変更を通してアイテムをルートすることで、欠陥が修正され、アイテムが新しいリビジョンに変更されます。

Java クライアントでアイテムから QCR を作成するには

1. 既存のアイテムを開きます。
2. オブジェクト・ウィンドウを右クリックし、ドロップダウン・メニューから「品質変更要求(QCR)の作成」を選択します。
3. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
4. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
5. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

Web クライアントで PSR またはアイテムから QCR を作成するには

1. 既存のアイテムを開きます。「カバー・ページ」が表示されます。
2. 「カバー・ページ」で「アクション」ボタンをクリックします。
3. ドロップダウン・メニューから「新規作成」>「品質変更要求」の順に選択します。「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「タイプ」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
5. 「QCR 番号」フィールドで表示された番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。

Agile Web クライアントが QCR を作成し、QCR が編集モードで「カバー・ページ」とともに表示されます。

作成した QCR は、ユーザーが削除するまでシステムに残ります。QCR を削除しても、Agile データベースからは削除されません。システムから QCR を完全に削除するには、ハード削除する必要があります。QCR の削除の詳細は、69 ページの [「Agile オブジェクトの削除」](#) を参照してください。

PSR からの QCR の作成

PSR から QCR を作成すると、製品サービス依頼に対して是正処置を実施できます。PSR または個別アイテムから直接 QCR を作成できます。Web クライアントの「アクション」メニューおよび Java クライアントの「詳細」ボタンを使用して QCR を作成できます。QCR を使用すると、問題をルーティング可能な品質記録に集約して根本原因不良分析を実行し、標準の CAPA（是正・予防処置）の手順を使用して問題を解決できます。

JavaクライアントでPSRからQCRを作成するには

- 既存の **PSR** を開きます。
- 「**詳細**」ボタン  をクリックします。
- ドロップダウン・メニューから「品質変更要求(QCR)の作成」を選択します。
- 「新規」ダイアログ・ボックスが表示されます。目的のサブクラス・タイプ（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
- 「**QCR番号**」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「**自動採番**」ボタン  をクリックして番号を生成します。
- 「**OK**」をクリックします。

QCR が編集モードで開きます。

WebクライアントでPSRからQCRを作成するには

- 既存の **PSR** を開きます。
- 「**アクション**」メニューをクリックします。
- 「**品質変更要求(QCR)の作成**」オプションを選択します。
- 「新規作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。「**タイプ**」リストから目的のサブクラス（「検証」または「是正・予防処置」）を選択します。
- 「**QCR番号**」フィールドでデフォルトの番号を受け入れるか、番号を入力するか、または「**自動採番**」ボタン  をクリックして番号を生成します。
- 「**保存**」をクリックします。

QCR（検証または是正・予防処置）が編集モードで開きます。

QCR の「カバー・ページ」タブ

次の表では、**QCR** の「カバー・ページ」タブのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
QCR番号	作成時に自動入力	QCR の作成時に割り当てられる番号。
QCRタイプ	作成時に自動入力	QCR の作成時に選択したサブクラスのタイプ。
カテゴリ	手動	Agile PLM 管理者によって定義されたカテゴリのリスト。
説明	通常は手動入力（デフォルトの使用が可能）	QCR の説明。管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行（2バイト）を含め 4,000 バイトまで入力できます。
理由	通常は手動入力（デフォルトの使用が可能）	QCR を作成する理由。管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行（2バイト）を含め 4,000 バイトまで入力できます。
顧客	手動。	QCR に関係する顧客。
サプライヤ	手動	QCR に関するサプライヤのリスト。たとえば、サプライヤがプロセス、製品、その他の部分の問題を解決する必要がある場合、SCAR を開始できます。

フィールド	設定方法	内容
ワークフロー	通常は手動で選択。QCR にワークフローを割り当てていない場合は、「未割当」ステータスのままです。 ワークフローを割り当てずに QCR を次のステータスに移行すると、ワークフローを選択するように促されます。QCR が「保留中」ステータスであるかぎり、ワークフローはいつでも変更できます。	品質管理プロセスに従ってこの QCR を、処理するために使用するワークフローの名前。
品質管理者	リストから選択。リストには最初に部署、次に個々のユーザー名が表示されます。	デフォルトの品質管理者。 注意 デフォルトの品質管理者ではなく別の品質管理者を選択すると、「選択した品質管理者はデフォルトではありません。デフォルトのリストは次のとおりです。デフォルトの品質管理者ユーザー名 (ユーザーID)」というメッセージが表示されます。 ワークフローがデフォルトの品質管理者に通知するよう定義されている場合、このフィールドのユーザー・グループまたはユーザーは QCR に関する通知を受信します。このフィールドを空白にすると、リストのすべての品質管理者に通知されます。ワークフローの通知定義が空白の場合、通知は送信されません。
ステータス	作成時に自動入力。QCR がワークフローを通過するのに従って更新されます。	ワークフロー・ステータス。ワークフローが選択されていない場合、このフィールドには「未割当」ステータスが表示されます。
作成者	通常は作成時に自動入力 (Agile PLM 管理者が設定するデフォルト値)	QCR の作成者。
作成日	通常は作成時に自動入力	QCR を作成した日付。
提出日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで「提出済」ステータスに移行した日付。
リリース日	ワークフロー・ステータスに基づいて自動生成	QCR がワークフローで最初の「リリース済」ステータスに移行した日付
最終完了日	QCR が「完了」ステータスに移行した際に自動入力	QCR が「完了」ステータスに移行した日付。
予防策	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまで入力できます。	問題が再発しないようにするための事前処置。CAPA にのみ適用されます。

フィールド	設定方法	内容
根本原因分析	手動。Agile PLM 管理者が最大バイト数を設定します。スペースと改行 (2 バイト) を含め 4,000 バイトまで入力できます。	問題の根本原因。CAPA にのみ適用されます。
検証予定日	手動	問題を検証する予定日。
検証結果	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能) たとえば、CAPA を実施するときに、品質分析者は検証を実行して、CAPA が実際に問題を解決することを確認します。問題の解決が確認されると、結果は合格となります。それ以外は失敗となります。品質分析者は「検証結果」フィールドを更新します。	検証プロセスの結果。検証結果のデフォルト設定は、合格/失敗です。他の設定の詳細は、Agile 管理者にお問い合わせください。
製品ライン	通常は手動入力 (デフォルトの使用が可能)。	Agile 管理者によって定義された製品ラインのリスト。

QCR のカバー・ページの更新

QCR を作成した後、追加情報を指定して QCR を変更したり、QCR の作成後に変更された情報を編集できます。

(Java クライアントおよび Web クライアント) QCR のカバー・ページを更新するには

1. 編集する QCR を開きます。
2. 「編集」ボタンをクリックします。
3. 該当するフィールドを変更します。テキストを入力するか、ドロップダウン・リストまたはパレットを使用して QCR を編集できます。
4. 「保存」をクリックして変更内容を保存します。

注意 Web クライアントでは、QCR を編集して保存した後、変更が正常に保存されたというメッセージがメッセージ・バーに表示されます。

「カバー・ページ」に QCR の更新内容が表示されます。

QCR の「対象アイテム」タブ

「対象アイテム」テーブルには、QCR の影響を受けるアイテムが一覧表示されます。QCR の「対象アイテム」タブには、「対象アイテム」テーブルと「PSR アイテム」テーブルが含まれます。

次の表では、「対象アイテム」タブのデフォルトのフィールドについて説明します。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力。	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力。	アイテムの説明。

フィールド	設定方法	内容
アイテム・リビジョン	手動	問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。 たとえば、アイテムが5回改訂され、リビジョンBで欠陥が特定された場合、「アイテム・リビジョン」には、「B」が表示されます。 注意 アイテムの複数のコピーを同一リビジョン番号でQCRの「対象アイテム」タブに追加できます。
対象拠点	作成時に自動入力。	問題が見つかった拠点。
画像	作成時に自動入力。	PSRアイテムの存在。

「対象アイテム」タブのページには、「対象アイテム」と「PSRアイテム」テーブルがあります。「表示」と「パーソナライズ」メニューは、両方のテーブルに表示されます。

注意 「パーソナライズ」メニューを使用すると、ビューを作成してカスタマイズできます。「パーソナライズ」メニューを使用して、フィルタ条件と並替え順序を定義していくつかのビューを作成して保存します。後で、使用可能なビューのリストから目的のビューを選択できます。

「PSRアイテム」テーブルには、このQCRに関連するPRおよびNCRレポートで参照されるアイテムが表示されます。関係ルールにPSRに影響を与えるQCRがある場合、このテーブルには自動的に値が入力されます。

- PSRをQCR「関係」タブに追加し、QCRがPSRに影響する箇所にルールを追加して、PSRをQCRと関連付けます。
- QCRをPSR「関係」タブに追加し、QCRがPSRに影響する箇所にルールを追加して、PSRをQCRと関連付けます。
- PSRからQCRを作成します。

次の表に、「対象アイテム」タブの「PSRアイテム」テーブルに表示されるデフォルトのフィールドを示します。

フィールド	設定方法	内容
アイテム番号	作成時に自動入力	対象アイテムの番号。
アイテムの説明	作成時に自動入力	アイテムの説明。
アイテム・リビジョン	手動	問題が見つかった対象アイテムのリビジョン。
対象拠点	作成時に自動入力	問題が見つかった拠点。
PSR番号	作成時に自動入力	QCRに関するPSRの番号。

注意 「アイテム番号」フィールドは、「パーソナライズ」メニューで選択した並替え順序に応じて、テーブルの昇順  または降順  を示します。

QCRの「関係」タブ

「関係」タブを使用すると、現在のQCRとルーティング可能なオブジェクトおよびライフサイクル・オブジェクトの間に関係と依存を作成できます。

PSRからQCRを作成すると、次の処理が行われます。

- QCR の「関係」テーブルに PSR がコピーされる
- PSR の「関係」テーブルに QCR がコピーされる

QCR イベントの発生時に、PSR をワークフロー内の特定のステータスに移行させるようにイベント・トリガーを設定できます。QCR の「関係」タブは PSR と似ています。35 ページの [「関係」タブ](#) も参照してください。

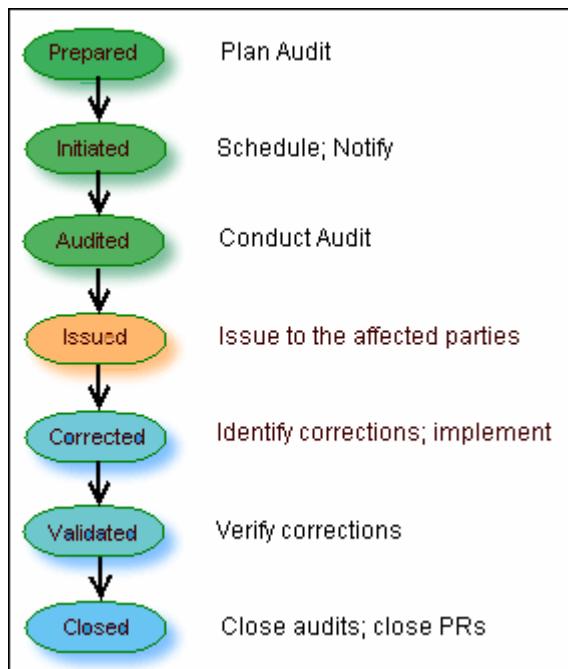
QCR の「ワークフロー」タブ

「ワークフロー」タブには、「カバー・ページ」で選択したワークフローのフローチャートが表示されます。Agile PLM ワークフローとは、ルーティング可能なオブジェクトが従うステータスの流れで、品質管理プロセス内の様々なステータスで構成されています。オレンジの背景色(Web クライアント)または黄色の背景色(Java クライアント)が、現在のステータスです。「サインオフ履歴」テーブルには、QCR の過去のワークフローとサインオフの情報が表示されます。

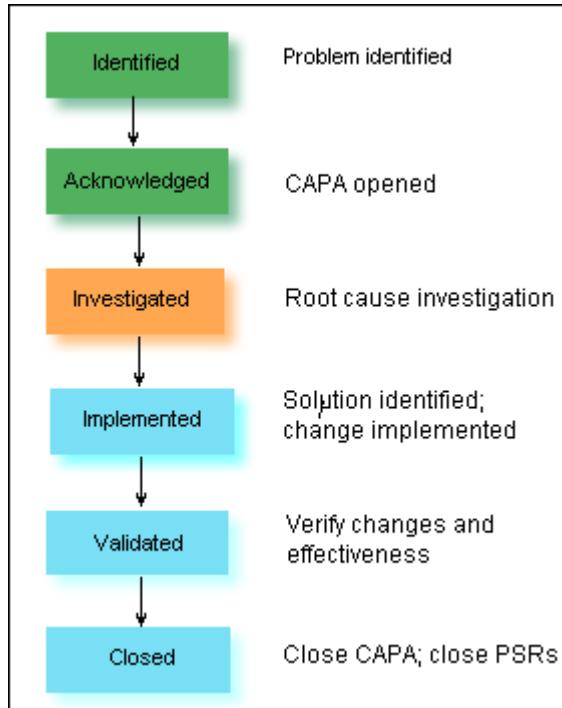
「ワークフロー」タブのページには、「表示」および「パーソナライズ」ボタンがあります。「表示」および「パーソナライズ」メニューの詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

注意 「デフォルトの検証」および「デフォルトのは是正・予防処置」のワークフロー・ステータスは、他のルーティング可能なオブジェクトとは異なることに注意してください。

検証ワークフローのステータスは「準備完了」、CAPA のステータスは「確認済」で開始します。



次の表に、デフォルトの CAPA のステータスを示します。



カバー・ページの「次のステータス」ボタンでは、ドロップダウン・メニューに表示される許容順序の任意のステータスに送信可能なオブジェクトを切り替えることができます。

「検証」の一般的なルートは次のとおりです。

「準備完了」>「開始済み」>「検証済み」>「発行済み」>「改善済み」>「有効」>「クローズ」。

検証の場合、「中断」および「キャンセル」ステータスがワークフロー・チャートまたは「次のステータス」ドロップダウン・メニューに示されるのは、「開始済み」ステータスに到達した後です。

「是正・予防処置」の一般的なルートは次のとおりです。

「確認」>「認定」>「調査」>「実施」>「有効」>「クローズ」。

「是正・予防処置」の場合、「中断」および「キャンセル」ステータスがワークフロー・チャートまたは「次のステータス」ドロップダウン・メニューに示されるのは、「認定」ステータスに到達した後です。

QCR を提出、ルートする

QCR を提出するには、「次のステータス」ボタンを使用します。このプロセスは、他のルーティング可能なオブジェクトを提出する場合と同じです。QCR のステータスを切り替える前に、切替えを妨げるエラーがないかどうか、ルーティング可能なオブジェクトを必ず検証してください。QCR を提出すると、品質管理者にも電子メールで通知されます。品質管理者は、受信トレイの「ワークフロー・ルーティング」部分または「品質検索」フォルダで最近提出された QCR も検索できます。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

QCR の「添付ファイル」タブ

QCR の「添付ファイル」タブからファイルおよび添付ファイルを参照できます。QCR の「添付ファイル」タブは PSR と似ています。詳細は、47 ページの [「PSR の「添付ファイル」タブ」](#) を参照してください。

第 4 章

製品サービス依頼の管理

この章のトピック

▪ PSR の承認	59
▪ PSR の確認	60
▪ PSR の却下	60
▪ PSR の終了	61
▪ PSR の「アクション」メニュー	61
▪ PSR のステータスの検証	62
▪ PSR のリリースの検証	62

PSR の承認

PSR を承認または却下するには、PSR の承認者であることと PSR 管理者の役割を持つている必要があります。追加の権限が必要な場合は、Agile 管理者に問い合わせてください。

PSRを承認するには

1. PSR を開きます。（PSR が「レビュー」または「リリース済」ステータスであることを確認します）。
2. 「承認」ボタンをクリックします。レビューの承認ダイアログ・ボックスが表示されます。「ユーザー」フィールドは事前に入力されています。
3. 必要に応じて「パスワード」を入力します。

注意 現在のワークフロー・ステータスの「パスワードが必要」プロパティの設定に応じて、「承認/却下」ウィンドウに「パスワード」フィールドが表示されます。ワークフロー・プロパティの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

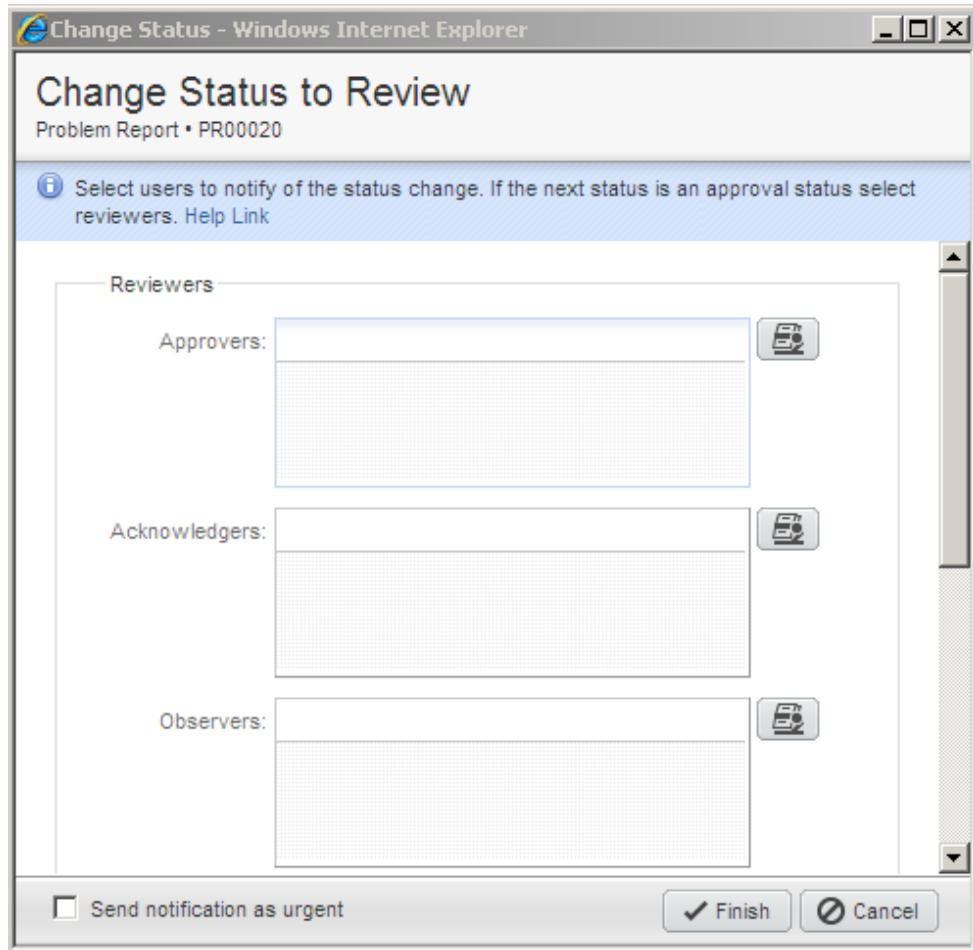
4. 通知する「品質分析者」と「作成者」を選択します。
5. パレットを使用して「承認者」を追加します。

注意 ユーザーは、確認者、オブザーバおよび承認者に同時にすることはできません。複数のワークフローの役割を持つユーザーの名前を示すエラー・メッセージが表示されます。

6. 必要に応じて「コメント」を追加します。
7. このアクションによって送信される通知を「緊急」としてマークするには、「緊急通知の送信」チェック・ボックスを選択します。
8. 「承認」をクリックします。
9. 「完了」をクリックします。

PSR の確認

確認ワークフロー・アクションでは、変更をレビューしたことをユーザーがサインオフする必要があります。ユーザー、ユーザー・グループ、ユーザーが指定されたジョブ機能、ユーザー・グループが指定されたジョブ機能のいずれかが確認者になれます。すべての確認者がサイン・オフしていない場合は、ワークフローを自動昇格できません。



注意 ユーザーは、確認者、オブザーバおよび/または承認者になれません。複数のワークフローの役割を持つユーザーの名前を示すエラー・メッセージが表示されます。

PSR の却下

PSR を却下するとワークフロー・タブに表示され、その PSR に関連付けられているユーザーに通知されます。

PSRを却下するには

1. PSR を開きます。（PSR が「レビュー」または「リリース済」ステータスであることを確認します）。
2. タブの上にある「却下」ボタンをクリックします。「レビューの却下」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 必要に応じて「パスワード」を入力します。

注意 現在のワークフロー・ステータスの「パスワードが必要」プロパティの設定に応じて、「承認/却下」ウィンドウに「パスワード」フィールドが表示されます。ワークフロー・プロパティの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

4. 通知する「品質分析者」と「作成者」を選択します。
5. パレットを使用して「承認者」を追加します。必要に応じて「コメント」を追加します。
6. このアクションの結果として送信される通知を「緊急」としてマークするには、「緊急通知の送信」チェック・ボックスを選択します。
7. 「却下」ボタンをクリックします。
8. 「完了」をクリックします。

PSR を終了する

PSRを終了つまり「完了」ステータスに昇格するには

- PSR を手動で終了します（適切な権限がある場合）。
- ルールの条件が満たされたときに PSR のステータスが「終了」になるように、PSR の「関係」タブでそのルールを設定します。

PSR の「アクション」メニュー

「アクション」メニューには、PSR で実行可能なアクションのリストが表示されます。

アクション	意味
ブックマーク	将来取り出すために、PSR をブックマークとして保存します。
確認通知	確認通知により、テーブルの変更またはオブジェクトの属性が通知されます。
名前を付けて保存	現在の PSR のコピーを作成し、同じサブクラスまたは異なるサブクラスに保存します。
削除	PSR を削除します。
送信	PSR を必要な役割と権限を持つユーザーに送信します。
共有	ユーザーは、自分と同等のアクセス権限を他のユーザーに付与できます。
URLをクリップボードにコピー	電子メールまたはドキュメントで表示しているリンクをコピーして貼り付けることができます。
ステータスの検証	オブジェクトのステータスを検証し、ワークフローを続行できるかどうかを確認します。
リリースの検証	既存のワークフロー・ステータスを使用してオブジェクトをリリースできるかどうかを検証します。
ワークフローの表示	PSR のワークフロー・ステータスを表示できます。
印刷	PSR を印刷します。
エクスポート	PSR を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel Notebook または XML ファイルにエクスポートします。
品質変更要求(QCR)の作成	PSR で品質変更要求を作成できます。

PSR のステータスの検証

「検証」ボタンを使用すると、PSR のステータスを検証できます。ワークフローが次のステータスに移動できるかどうかが確認されます。PSR のワークフローを次のステータスに自動昇格する必要がある場合は、検証が自動的に実行されます。

JavaクライアントでPSRのステータスを検証するには

1. 検証する必要がある PSR を開きます。
2. 上部の「検証」ボタンをクリックするか、ウインドウを右クリックし、表示されるメニューから「ステータスの検証」を選択します。「ステータスの検証の検証結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。必要に応じてエラーを修正します。
3. 「OK」をクリックします。

WebクライアントでPSRのステータスを検証するには

1. 検証する必要がある PSR を開きます。
2. 「アクション」メニューをクリックし、「ステータスの検証」を選択します。メッセージ・バーに、必要に応じてエラーを修正するように通知するメッセージが表示されます。
3. 「閉じる」をクリックします。

PSR のリリースの検証

PSR がリリース・ステータスに昇格されると、「リリースの検証」が自動的に実行されます。「リリースの検証」では、PSR の設定が「リリース」ステータスの設定と一致するかどうかが検証されます。

(例: 必須エントリ・フィールド、条件に一致するステータス)

「ワークフロー」タブの「次のステータス」ボタンを使用して PSR をリリースできます。前の「レビュー」ステータスで、「自動昇格」プロパティが「はい」に設定されている場合、ルーティング可能なオブジェクトがリリースされます（すべての承認者によって変更が承認された場合は自動的にリリース）。

PSR をリリースする前に、検証してリリースの検証に合格する必要があります。各ステータス・レベルで、次の検証が確認されます。

- ステータスが「保留中」、「レビュー」、「リリース済」および「完了」の場合: 現在のステータス・レベルでの必須フィールド。（必須フィールドは、Agile 管理者がワークフローのプロパティ設定で指定します）。
- 「レビュー」ステータスの場合: すべての承認者の承認がチェックされます。
- 「リリース済」ステータスの場合: 現行のすべてのリリース検証ルールがチェックされます。

PSR のリリース方法の詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』の「ワークフローを使用してオブジェクトをルートする」を参照してください。

JavaクライアントでリリースのためにPSRを検証するには

1. リリースのために検証する PSR を開きます。
2. 「リリースの検証」ボタンをクリックするか、Agile Java クライアント・ウインドウを右クリックします。表示されるメニューから「リリースの検証」をクリックします。「リリースの検証の検証結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。必要に応じてエラーを修正し、再び検証します。
3. 「OK」をクリックして「検証結果」ダイアログ・ボックスを閉じます。

WebクライアントでリリースのためにPSRを検証するには

1. リリースのために検証する PSR を開きます。
2. 「アクション」>「リリースの検証」の順に選択します。必要に応じてエラーを修正し、再び検証します。
3. 「閉じる」をクリックします。

「検証」ウィンドウ

「検証」ウィンドウのエラー/警告メッセージには、下線が付いたハイパーリンクがあり、クリックすると問題に直接移動できます。問題を解決する間、「検証」ウィンドウは開いたままになります。問題を解決したら、再検証ボタンを実行します。メッセージのハイパーリンクを一度クリックするとハイパーリンクの色が変わります。

次にいくつか例を示します。

- **ステータス検証エラー:** オブジェクトが問題なく次のステータスに移動できるかどうか現在のステータスを検証します。ステータス検証は「ステータスの変更」機能を使用するとき、またはワークフローがPSRを次のステータスに自動昇格しようとするときに自動的に実行されます。
 - 終了に必要なフィールドが指定されていない場合: ワークフロー・ステータスを移動する前に特定のフィールドを必須にする条件をワークフロー定義に設定できます。たとえば、提出する前に「対象アイテム」の説明の入力を必須にするように指定できます。



ハイパーリンクをクリックすると、更新する必要がある「対象アイテム」テーブルに直接移動します。

C00043		Submitted												
ECO														
Comment	Next Status	Actions												
Cover Page Affected Items * Workflow * Relationships Attachments History														
Affected Items		Views: Base View * Personalize												
Add Remove Bulk Change More		Save Close												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Item Number</th> <th>Item Description</th> <th>Sites</th> <th>Change Function</th> <th>Old Rev</th> <th>New Rev</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P00067</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			Item Number	Item Description	Sites	Change Function	Old Rev	New Rev	P00067		2			
Item Number	Item Description	Sites	Change Function	Old Rev	New Rev									
P00067		2												
0 of 1 rows selected														

- 承認がない場合: レビュアが承認していない場合。たとえば、ステータスが「レビュー」または「リリース」タイプで承認者が承認していない場合にハイパーリンクをクリックすると、ワークフロー・ページに直接移動して、承認していない承認者に督促が送信されます。
- **リリース検証エラー:** 送信可能なオブジェクトをリリースするための現在のステータスの検証。Agile PLMでは、送信可能なオブジェクトがワークフロー内で最初に「リリース済」タイプのステータスに昇格されたときにリリース検証が自動的に実行されます。
 - 提案されている新規リビジョン番号が存在する場合: 新規リビジョン番号が古い番号と同じ場合、リビジョンの矛盾のエラー・メッセージが表示されます。

第 5 章

品質変更要求の管理

この章のトピック

▪ QCR の承認.....	65
▪ QCR の確認.....	65
▪ QCR の却下.....	66
▪ QCR の終了.....	66
▪ QCR の「アクション」メニュー.....	67

QCR を承認または却下するには、適切な権限があり、次の条件を満たしている必要があります。

- **QCR** のステータスが「レビュー」または「リリース済」タイプである必要があります。
- 承認者またはオブザーバとして **QCR** リストに登録されている必要があります。

QCR の承認

QCR の承認者として指定されている場合、特定のアイテムに対する検証または是正処置を確認する必要があります。詳細は、『Agile PLM ユーザー・ガイドおよびスタート・ガイド』を参照してください。

QCR を承認または却下するには、適切な権限があり、次の条件を満たしている必要があります。

- **QCR** のステータスが「レビュー」または「リリース済」タイプである必要があります。
- そのステータスで承認または却下するための権限が必要です。
- 承認者またはオブザーバとして **QCR** リストに登録されている必要があります。

WebクライアントでQCRを承認するには

1. 承認する **QCR** を開きます。
2. 「承認」ボタンをクリックします。「承認」ウィザードが表示されます。
3. 必要に応じて、「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。

注意 現在のワークフロー・ステータスの「パスワードが必要」プロパティの設定に応じて、「承認/却下」ウィンドウに「パスワード」フィールドが表示されます。ワークフロー・プロパティの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

4. 作成者、品質管理者、承認者、確認者およびオブザーバに通知する場合は、チェック・ボックスを選択します。**QCR** を承認したことをユーザーまたはユーザー・グループに通知することもできます。
5. 「検索」パレットをクリックし、通知するユーザーを選択します。
6. 「コメント」フィールドに承認者のコメントを入力します。コメントは必須ではありません。「コメント」を有効にするには、Java クライアントで「承認に関するコメント」を「可」に設定する必要があります。
7. 「承認」をクリックします。

QCR の確認

QCR の確認ワークフロー・アクションでは、変更をレビューしたことをユーザーがサインオフする必要があります。ユーザー、ユーザー・グループ、ユーザーが指定されたジョブ機能、ユーザー・グループが指定されたジョブ機能のいずれかが確認者になります。

QCR のステータスを変更すると、承認者、確認者およびオブザーバによる確認が必要になります。承認者は変

更を承認し、確認者は変更を確認し、オブザーバは変更の通知を受けます。

QCRを確認するには

1. QCRを作成して、ステータスをCCBに変更します。

注意 CCBステータスの確認者として十分な権限があるユーザーを必ず追加してください。例: 管理者

2. 管理者としてログインし、QCRにナビゲートします。
3. 「確認」ボタンをクリックします。表示されるウィンドウで、必要な詳細を入力します。
4. 「確認」ボタンをクリックします。
5. 「ワークフロー」タブの「アクション」に「確認済」が表示され、変更が確認されたことか示されます。



Status	Workflow	Action	Workflow	Req'd	Signoff User
Issued			Default Audits		
Corrected			Default Audits		
Closed			Default Audits		
Validated			Default Audits	Yes	Admin, Admin08

注意 ユーザーは、確認者、オブザーバおよび/または承認者になれません。複数のワークフローの役割を持つユーザーの名前を示すエラー・メッセージが表示されます。

QCRの却下

QCRが適切でない場合、却下することもできます。たとえば、チームが行った是正処置を品質管理者が適切でないと判断した場合、品質管理者は処置を却下できます。

WebクライアントでQCRを却下するには

1. 却下するQCRを開きます。
2. 「却下」ボタンをクリックします。「却下」ウィザードが表示されます。
3. 必要に応じて、「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。

注意 現在のワークフロー・ステータスの「パスワードが必要」プロパティの設定に応じて、「承認/却下」ウィンドウに「パスワード」フィールドが表示されます。ワークフロー・プロパティの詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

4. 作成者、品質分析者およびレビューに通知する場合は、チェック・ボックスを選択します。
 5. 「検索」パレットをクリックし、通知するユーザーを選択します。
 6. 「コメント」フィールドに承認者のコメントを入力します。コメントは必須ではありません。Javaクライアントで「却下に関するコメント」を「可」に設定する必要があります。
- 詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「ワークフロー」を参照してください。
7. 「却下」ボタンをクリックします。

QCRを終了する

QCRを終了つまり「完了」ステータスに昇格するには

- QCRを手動で終了します（適切な権限がある場合）。
- ルールの条件が満たされたときにQCRのステータスが「終了」になるように、QCRの「関係」タブでそのルールを設定します。

一般に、**QCR** に関連する変更または ECO をリリースすると、品質管理者はその **QCR** を解決して終了できるかどうかを判断します。

QCR の「アクション」メニュー

「アクション」メニューには、**QCR** で実行可能なアクションのリストが表示されます。

アクション	意味
ブックマーク	将来取り出すために、 QCR をブックマークとして保存します。
確認通知	確認通知により、テーブルの変更またはオブジェクトの属性が通知されます。
名前を付けて保存	現在のオブジェクトのコピーを作成し、同じサブクラスまたは異なるサブクラスに保存します。
削除	QCR を削除します。
URL をクリップボードにコピー	電子メールまたはドキュメントで表示しているリンクをコピーして貼り付けることができます。
送信	QCR を必要な役割と権限を持つユーザーに送信します。緊急通知を送信するオプションも使用できます。
共有	ユーザーは、自分と同等のアクセス権限を他のユーザーに付与できます。
ステータスの検証	オブジェクトのステータスを検証し、ワークフローを続行できるかどうかを確認します。
リリースの検証	オブジェクトを検証して、別のステータスに切り替えられなくなる可能性があるエラーを検出します。
ワークフローの表示	QCR のワークフロー・ステータスを表示できます。
印刷	QCR を印刷します。
エクスポート	QCR を区切り文字テキスト・ファイル (CSV) または Microsoft Excel Notebook または XML ファイルにエクスポートします。
変更の作成	QCR から直接変更を作成できます。
ワークフローの表示	QCR のワークフロー・ステータスを表示できます。

QCR の変更指示

QCR から直接変更を作成することで、変更指示をリリースして、問題を解決できます。**QCR** から作成した変更は、**QCR** の「関係」タブに表示されます。

JavaクライアントでQCRから変更を作成するには

1. **QCR** の「カバー・ページ」で、右クリックして「変更の作成」を選択します。
2. 「タイプ」リストから変更のオブジェクト・タイプ（「MCO」、「ECO」、「ECR」、「期限付き変更指示」または「出荷停止」）を選択します。
3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
4. 「対象アイテムを変更に追加」テーブルに、**QCR** および PSR のすべての対象アイテムが表示されます。「対象アイテム」と「PSR アイテム」のリストからアイテムを選択します。すでに変更に関連付けられているアイテムもこのリストに表示されるため、1つのアイテムに関連付けられた複数の変更を開始できます。リストには一意なアイテムが表示されます（アイテムが「対象アイテム」と「PSR アイテム」の両方に現れる場合、そのアイテムがリストに表示されるのは1度のみです）。

5. 「OK」をクリックします。

Agile Java クライアントによって変更が作成され、QCR の「関係」タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の「対象アイテム」タブにコピーされます（このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます）。

WebクライアントでQCRから変更を作成するには

1. QCR を開いて、「アクション」>「変更の作成」メニュー・オプションを選択します。
2. 「新規作成」ダイアログ・ボックスで、サブクラス・リストから変更のオブジェクト・タイプ（「MCO」、「ECO」、「ECR」、「期限付き変更指示」または「出荷停止」）を選択します。
3. 「番号」フィールドで番号を入力するか、「自動採番」ボタン  をクリックして番号を生成します。
4. 「作成日」フィールドは事前に入力されています。
5. バージョンを追加するには、「検索」パレットをクリックします。
6. 対象アイテムを追加するには、「検索」パレットを使用します。オブジェクトを「対象アイテム」フィールドに移動するには、オブジェクトを選択してダブルクリックします。
7. 「閉じる」をクリックします。
8. 「保存」をクリックします。

Agile Web クライアントによって変更が作成され、QCR の「関係」タブに追加されます。選択されたアイテムは変更の「対象アイテム」タブにコピーされます（このため、QCR がそれぞれに異なるアイテムを含む複数の変更に分割されます）。

付録 A

Agile オブジェクトの削除

Java クライアントおよび Web クライアントは、多くの Agile オブジェクト・クラスの「ソフト」削除と「ハード」削除をサポートしています。データベース内のオブジェクトをソフト削除しても、完全には削除されません。ソフト削除されたオブジェクトはデータベース内で「削除済」としてマークされ、オブジェクト番号または名前は保持されます。ソフト削除されたオブジェクトと同じタイプおよび番号または名前を持つ別のオブジェクトを作成することはできません。

検索を実行しても、ソフト削除されたオブジェクトは検索結果テーブルには表示されません。ソフト削除されたオブジェクトを検索するには、「削除済オブジェクト検索」フォルダで事前に定義された削除済オブジェクト検索を実行する必要があります。

注意 ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドに、「削除済オブジェクト検索」が含まれている場合、「削除済オブジェクト検索」フォルダにアクセスできます。適切な権限がある場合、ユーザー・プロファイルを編集し、「検索」フィールドの検索のリストに「削除済オブジェクト検索」を追加できます。ユーザー・プロファイルの「検索」フィールドを変更するための適切な権限がない場合は、Agile 管理者にユーザー・プロファイルを変更するように依頼してください。

ハード削除されたオブジェクトは、データベースから完全に削除されます。

注意 ハード削除されたオブジェクトの削除を取り消すことはできません。

Agile オブジェクトのソフト削除、ハード削除、または削除取消しを行うには

- そのオブジェクトの適切な削除権限または削除取消し権限が必要です。
- すべての関係と確認通知を削除する必要があります。
- オブジェクトは、削除または削除取消しできるかどうかを決定する追加条件を満たしている必要があります。通常、オブジェクトの削除または削除取消しによってデータ整合性が失われる可能性がある場合、削除または削除取消しアクションは無効になります。

PSR オブジェクトまたは QCR オブジェクトの削除に関する注意事項

製品サービス依頼 (PSR) オブジェクトまたは品質変更要求 (QCR) オブジェクトを削除する前に、次に示す条件を満たしている必要があります。

- Agile 管理者によって、適切な削除権限を持つ役割が割り当てられている。
- すべての関係と確認通知が削除されている。
- PSR または QCR が「保留中」ステータスまたは「未割当」ステータスになっている。
- 「対象アイテム」テーブルのアイテムのディスカバリ権限と読み取り権限を持っている。権限がない場合は、PSR および QCR は削除できません。

注意 すでにリリースされている PSR または QCR を削除するには、まず未リリースにする必要があります。「ワークフロー」タブを使用して PSR または QCR を別のステータスに切り替えるには、未リリースにするための適切な権限が必要です。

次の場合、PSR は削除できません。

- PSR が QCR の「関係」タブに表示されている。
- PSR が現在、是正処置プロセスの一部である。PSR を QCR から削除してから、PSR を削除します。
- PSR が別の PSR の「関連 PSR」タブに表示されている。
- PSR が現在、より大きな問題の一部である。この PSR を親 PSR から削除してから、PSR を削除します。
- PSR が「関連 PSR」タブに表示されている。

- PSR が複数の問題を集約するために使用されている。関連 PSR を削除してから、PSR を削除します。次の場合、QCR は削除できません。
 - QCR の「関係」タブに PSR が存在する。
 - 是正処置プロセスに問題レポートが含まれている。PSR を QCR から削除してから、QCR を削除します。
 - QCR の「関係」タブに変更が存在する。
 - 設計変更を通じて是正処置プロセスがすでにルートされている。変更を QCR から削除してから、QCR を削除します。

この章のトピック

- 70 ページの [「オブジェクトのソフト削除」](#)
- 70 ページの [「オブジェクトの削除の取消し」](#)
- 71 ページの [「オブジェクトのハード削除」](#)

オブジェクトのソフト削除

オブジェクトをソフト削除すると、そのオブジェクトは使用できなくなります。ただし、オブジェクトの番号または名前は、オブジェクトがハード削除されるまで Agile PLM データベース内に保管されるため、他で使用することはできません。

Java クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択して開きます。
 2. 「削除」ボタン  をクリックし、確認プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
- オブジェクトがソフト削除されます。

Web クライアントでオブジェクトをソフト削除するには

1. 削除するオブジェクトを選択して開きます。
 2. 「アクション」>「削除」の順に選択し、確認プロンプトが表示されたら「OK」をクリックします。
- オブジェクトがソフト削除されます。

「Agile オブジェクトの削除」の 70 ページの [「オブジェクトの削除の取消し」](#) および 71 ページの [「オブジェクトのハード削除」](#) も参照してください。

オブジェクトの削除の取消し

適切な権限がある場合、ソフト削除されたオブジェクトの削除を取り消すことができます。

Java クライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 復元する削除済オブジェクトを開きます。
3. 「削除取消」ボタン  をクリックします。

Web クライアントでオブジェクトの削除を取り消すには

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 復元する削除済オブジェクトを開きます。
3. 「アクション」>「削除取消」の順に選択します。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの「ナビゲータ」ドローワー  に検索結果オブジェクトへのリンクが表示されます。

「Agile オブジェクトの削除」の 70 ページの [「オブジェクトのソフト削除」](#) および 71 ページの [「オブジェクトのハード削除」](#) も参照してください。

オブジェクトのハード削除

ソフト削除されたオブジェクトは、データベースにまだ存在しています。オブジェクトを完全に削除するには、ハード削除する必要があります。一方、オブジェクトに対してソフト削除のみを実行した場合、そのオブジェクトの削除を取り消すことができます。「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済オブジェクト検索を実行します。

Javaクライアントでソフト削除されたオブジェクトをハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. オブジェクトを開きます。
3. 「オブジェクトの削除」ボタン  をクリックし、確認プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。

Webクライアントでソフト削除されたオブジェクトをハード削除するには（適切な権限がある場合）

1. 「削除済オブジェクト検索」フォルダから、適切な削除済<オブジェクト>検索を実行します。
2. 検索結果テーブルの1つ以上のオブジェクト行を選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。
4. 警告プロンプトが表示されたら、「続行」を選択し、「完了」をクリックします。
5. 1つのオブジェクトを一度にハード削除することもできます。
 - オブジェクトを開きます。
 - 「アクション」>「削除」の順に選択し、確認プロンプトが表示されたら「OK」をクリックします。

注意 検索結果テーブルの「ナビゲータ」ボタンをクリックすると、左側のウィンドウの「ナビゲータ」ドローワー  に検索結果オブジェクトへのリンクが表示されます。

「Agile オブジェクトの削除」の70ページの「[オブジェクトの削除の取消し](#)」および70ページの「[オブジェクトのソフト削除](#)」も参照してください。

